り、精神理想の方面より見れば戒定慧、智慧解脱を共にして無爲の道を歩む精神上の和合團體なり。

世尊の弟子衆(sāvaka-saṅgha)は能く順行し、直く順行し、正しく順行し、完く順行す。四衆八輩より成れる世尊の弟子衆は敬ふべく、貴ぶべく、禮すべく、世界に於ける無上の福田なり。聖者が受樂する戒行は分割すべからず、間斷ならず、雜色ならず、自主にして、智慧に導かれ、他に待たず、定心に基く。(1)

此の如く佛陀を中心として多くの聖者を團結する僧伽は世間最上にして又遍通なり、之を例ふれば大海の如し。(2)

恰も大海が正しく流れ、注ぎ、滔へて、而かも岸に溢れざるが如く、この正法律は增上に學し、行し、進みて而かも他の道に入らず。

恰も大海が常にその潮時を誤らざるが如く、我が弟子等は示されたる學道を歩み、一生之を越えず。

恰も大海が死屍を受けず、若し死屍あらば直に之を岸に致して陸に揚ぐるが如く、僧伽は破戒、惡法、不淨行、隱業にして、沙門ならずして沙門と稱し、婆羅門ならずして婆羅門と稱し、婆羅門ならずして婆羅門と稱し、內心汚れ、少聞にして汚穢に生まれたる者を容れず、直に之を放ち、此の如きもの僧伽の中にあらんには之を僧伽より除き淨む。

恰も五の大河、殑伽(Gaṅgā)、耶尤那(Yamunā)、阿夷羅婆提(Aciravatī)、薩羅浮(Sarabhū)、及摩企(Malū)が大海に入りては今までの別名を失ひて一大海に歸入するが如く、四姓、刹帝利、婆羅門、毘舍、首陀は、如來の說きし法律に從つて出家すれば、今までの族名を失ひ、釋子沙門(samaṇā Sakiyaputtiyā)に歸入す。

恰も世間何れの流水も大海に入り、空中よりは何れの瀑水も大海に落ちても、此がために大海の水は增減せざるが如く、諸の比丘は無餘涅槃界に入りても、そのために無餘涅槃界に增減あるなし。

恰も大海の水は一味に鹹味なるが如く、この法律は一味(ekarasa)にして解脫を味(vimutti-rasa)とす。

恰も大海の中には多くの寶あり、即ち眞球(muttā)、摩尼(maṇi)、琉璃(veḷuriya)、螺(saṅkha)、碧玉(silā)、珊瑚(pavāḷa)、銀(rajata)、金(jātarūpa)、赤石(lohitaṅka)、琁珠(masāragalla)あるが如く、この法律には多くの寶あり、即ち四念處、四意斷、四如意足、五根、五力、七

善提分、八聖道あり。

恰も大海には大身衆生住し、帝麗々々伽羅(timi-timingala)、帝麗伽羅(timiramingala)、阿修羅、龍、犍陀婆あり、その身百由句又は二百乃至五百由句なり。此の如く法律の中には大身の衆生あり、預流にして預流果を現じ、一來にして一來果を現じ、不還にして不還果を現じ、阿羅漢にして阿羅漢聖位に順行す。

之を如來法律の八未曾有法即ち佛敎團體の不思議となす。敎團の理想は此の如く宏大にして、總て志を同うし道を一にするものを容れて漏らさず、和合、無諍、共同(saṅgha, avivāda, sāmaggi)を體とす。[1] 而して此の如き和合の精神が最もよく現はれたるは、佛陀師主を中心として集まり、その法を聽きて共に法味に入れる會集なり。佛陀が數多の弟子に圍繞せられて、恰も大王の下群臣の集まれるに似たるは、先に(一二三頁)記せしが、尙二例を加へん。佛陀が王舍城の那伽(Nāga)山に在りて高足の弟子千餘人と共なりし時、詩僧婆耆婆は讃嘆の偈を誦して曰く

千餘の比丘等善逝に奉事す、
離穢の法を說き、涅槃無畏なる(善逝に)。

彼等は等正覺者の說きし離穢の法を聽き、
正覺者は比丘衆の上首として輝きませり。
世尊を龍象と稱しまつる、仙中の上首仙は
大雲の如くに興つて弟子に法雨を注ぐ。[1]

或る時世尊は毘舍利にて娑羅樓臺の大林に住し賜ひき。その時五百の離車族の人々世尊を敬禮しぬ。或る者は青色にして青衣を着け青き飾をなし、或る者は黃色にして黃衣を着け黃の飾をなし、或る者は紅色にして紅衣を着け紅の飾をなし、或る者は白色にして白衣を着け白き飾をなせり。その間にありて世尊は色彩と威嚴と特に他に勝れたり。かくて婆羅門ピンギャーニ(Pingiyāni)は座より起ちて偏に右の肩を袒し、世尊に對して微妙の偈を白して曰く、

白蓮、紅蓮共に能く香ほり、花は落ちても香は去らず、
日が空中に輝く如く光曜せる大雄を見よ。

かくて五百の離車衆は共に婆羅門ピンギャーニの如く(世尊を禮拜しぬ)。[2]

此の如く集まりたる會衆は僧伽の現實の姿なるも、その感化は精神的團結と

して理想を憧憬するにあり。現實に佛陀が大衆の中心となりて說法し、又大衆を統率して正法戒行を興行するは、その基く所三世諸佛の一乘道にありて、上は梵天王より下は畜生地獄の衆生を引導するを目的とす。されば僧伽はその性質幷に理想の必然の結果として、人界可見の聚衆を包括するのみならず、諸天精靈をも包容す。此を以て三寶經(1)はその開卷に天空地上一切の生靈を呼集して後に三寶の頌を歌ひ、大會經(2)には淨居天(Suddhāvāsa)を始め一切の諸天迦毘羅の大林に來集して佛陀を禮し、三世諸佛の僧伽には常に此の如き大會ありといへり。典尊經(3)には忉利、帝釋の諸天が天上にて佛陀を敬禮し、その敎法に歸依を表し(先三三頁)、アーターナーテヤ經(4)には王舍城鷲峯に四天王、夜叉(Yakkha)、犍陀婆(Gandhabba)、鳩般荼(Kumbhaṇḍa)、龍神(Nāga)等來集して過去諸佛と共に釋迦尊を禮拜して、その弟子衆を守護せり。此等諸天が佛陀說法の會座に來集する事は大乘の經典に至りては愈よ空想を長じたるも、その思想は諸天、諸天子の信仰と共に夙に存し、佛陀の僧伽は此等の諸生を包括するものとなれり。佛陀の出世は人間と共に諸天衆の利益のためにして、その轉法輪は實に梵天の勸請に

出でし事なれば(先七二頁)、その僧伽が一切の人天を包括するは自然の數なり。而して現在師主の敎化は三世諸佛一乘の道に基くものなれば、この僧伽が當に成道すべき衆生と共に過去に成道せる諸佛をも包括し、此等諸天衆は過去諸佛の會座にも參し、常に佛陀を尊信し、又佛敎の僧伽を守る。

地上にある者、空中に住む者、一切衆生、此處に來集せよ、

此等一切の衆生よ意を注ぎ心をこめて說く所を聽け。(5)

三寶經のこの辭は常に佛敎僧伽の精神にして、法華經化城喩品に於ける過去大通智勝佛(Mahābhijñābhibhū)の會座並に踊出品に於ける一切人天並に本化菩薩の大集會はこの精神を大文字に表はしたるものに外ならず。

* * * * * * * * * * *

佛敎の敎團はその理想に於て四海を併せ、一切衆生を攝受せしも、そは單に抽象又は空想に理想を畫きたるものにあらず、明白に具體的に師主釋尊を中心としたる會衆の精神的協同を擴充したる思想なり。此故に大會經にて大林に來集したる淨居天は、その集會が眞理の法に集まり、離垢の聖者を集めて、佛陀に歸

依するを目的とする事を宣せり。その偈に曰く、

林中に大會ありて、天身の者集まり來れり、
この法會に參し來りて無上勝の僧伽を禮せん。
そこにて比丘等は寂靜にして、自心を正直にし、
御者の如くに眼を制して、智者は諸根を攝護す。
刺を斷じ、關を斷ち、不動に帝幢を掲げ、
清淨、離穢にして、有眼、調御の靈象の如く行ず。
佛陀に歸依したるものは墮落せず、人身を捨てたる後は天身を成ぜん。[1]

三寶經が一切生靈を招集したる後に佛、法、僧の三寶[2]を讃嘆し、特に僧伽衆の道德を稱揚せるも、此と同じく、一方には僧伽の理想が宏大なるを示すと共に、調御、克制の修行は即ち僧伽の生命なるを示せり。されば僧伽はその組織に於ては嚴格に實行的にして、その衆徒は戒行を修して道行の上にて相和合するを要す。その團衆は、弘く見れば八輩(purisa-puggala)とて、人間にては婆羅門、居士、沙門、天界にては四天王、忉利天、魔天、梵天の諸衆を包含し、狹くいへば人界の信者にて男女

の出家行者即ち比丘(bhikkhu)、比丘尼(bhikkhunī)と、男女の在俗信者即ち優婆塞(upāsaka)、優婆夷(upāsikā)の四衆(purisa-yuga)を包括す。而して此等の會衆は理想に於て相集るも、その團結和合の中心は佛陀の人格にあり。佛陀を師主とし、その人が說法したる眞理の法を信じ、その制定したる戒律(vinaya)に從つて修行するを要す。戒律とは現實に云はゞ受戒入團の作法より日常生活の規定、敎團集會の法規、犯者の罰則を定めたるものなるも、又之を精神的に見れば三世諸佛と同一乘を步みて、同一の涅槃に到達するの道路なり。その組織並に規律の大要は上世印度宗敎史(第三部第三章)に記したれば、茲には之を略す。又た比丘が日常の生活、並に僧伽の集會たる布薩につきても、先に(第五篇)佛陀につきて述べしものと大體を同じくす。この點に於ても佛徒は佛陀の先縱を次ぐべきものにして、戒律はその道行の標目たると共に又師主の命令に出でて僧伽に相續したる敎權なり(現身佛と法身佛一八三—一九五)。

かゝれば如來の敎法眞理を世に傳へ、正法の久住(ciraṭṭhiti)を謀るは、一方には慧を修め定を練るにあるも[1]と共に、又三寶の一なる僧伽を尊重して、その戒律を

嚴守するを要す。大迦葉は佛の滅後殆ど師主の位置に立ちたる高足弟子なり。この大迦葉曾て如何にして正法(saddhamma)が減退して、僞法即ち像法(saddham-ma-paṭirūpaka)の出づるかを問ふ。佛陀は之に答へて曰く、

比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷が師主、法、僧伽、學、三昧を尊重し信順して住せば、正法は留住し、隱沒せず、減退せず、若し之に反せば減退すべし。[1]

信順尊重は三寶歸依の要契にして、戒律の精神及び僧伽の組織が佛敎に必要なるもこの一事に歸し、この信順の情は之を擴充すれば、服從より一轉して包容の大慈悲となるべし。されば敎權を尊重する上座に屬する戒律の傳承には、戒律の德五つを數へて曰く、[2]

(一) 僧伽を永く安らかにして、衆を攝取し感化す、
(二) 信ぜざる者をして信ぜしめ、已に信じたる者には信を增す、
(三) 戒を奉行せざる者を斷絕す、
(四) 外道異端の徒をして正道に入らしむ、
(五) 犯あり過ありて心に慚愧ある者に安隱慰藉を與ふ。

上座の敎權に對しては寧ろ反對の地に立ちし大衆部も亦戒律を受持する必要を列擧して曰く、[1]

(一) 佛の敎法を建立するために、
(二) 正法をして久住せしむるために、
(三) 疑あり又悔あつて而かも他人に問はずして之を決するために、
(四) 罪を犯して恐怖の心を抱き依怙歸托を求むるために、
(五) 諸方に遊化して障礙なからんために。

終に大乘の戒律に至りては、それを奉行する者の五利を擧げて曰く、[2]

(一) 十方諸佛その人を愍念して常に之を守護す、
(二) 命終の時正見にして心歡喜す、
(三) 善趣に生じて諸菩薩衆と俱に生活す、
(四) 功德の積集によりて、戒の至善盡く成滿す、
(五) 今世後生に亘りて性戒福慧多く圓滿す。

* * * * * * * * * * *

要するに佛敎に於ける僧伽は、その源を佛陀在世の布薩會に發し、その精神を延長しては諸天を始め一切衆生並に三世の諸佛を容れ、その團結の規律を充實しては、敎團の組織、戒律の敎權を確定したり。而して此の如き精神理想と組織規律とを具へたる敎團が佛敎に現はれしは、宗敎史上特に顯著なる事にして、佛敎が社會的組織以上に立ち、國民人種の境を超えたるも、敎團の理想宏大なりしに因る。然るに佛敎の僧伽はその精神理想に於ては益す擴大し來りしも、その組織統制の統一に至りては顯著なる發達をなし得ずして、その傳道膨脹と共に分離の傾向を增長したり。此は歷史上研究を要する點にして、又同時に佛敎の宗敎としての性質上大に考ふべき重要事なりとす。

第二章　僧伽と世俗生活

佛敎の僧伽は出家 (pabbajita) 行者と在家 (saṅgahaṭṭha) 信者とを包括す。出家沙門は一切の所有を棄て、住所を定めず、袈裟 (kāsāya) 即ち壞色の衣を着け、三衣一鉢のみを持して遊化修行す。之に反して在家信者は家庭に住して世俗の生活をなし、只五戒を持して、優婆塞戒を受くれば白衣を着す。されば袈裟衣の行者と白衣の信士とはその戒行に於て相異なり、若し完全を望まば出家の生活こそ眞の佛徒の修行にして、在家の道德は便宜の讓步に外ならず。この點より云はゞ佛敎には二重の道德を敎ふるものにして、その理想に偏僻あるか、然らずばその主義を徹底實行せざりしものといふべし。然れども佛敎は身口意の三業中最も意業を重んじ、自心淸淨を以て最も大切とせしかば、必しも嚴密に出家修行のみを以て唯一に完全の道德とせず、その成道の理想は一切四衆に通ずるものとせしなり。されば婆蹉種婆羅門は佛に白して曰く、

瞿曇よ、若しこの法を瞿曇のみ成就し得て、比丘が成就し得ずば、……又瞿曇が成就し得、比丘が成就し得て、比丘尼が成就し得ずば、……又在家白衣淨行の優婆塞が成就し得ずば、……諸慾を樂める優婆塞が成就し得ずば、……又在家白衣淨行の優婆夷が成就し得ずば、……又諸慾を樂める優婆夷が成就し得ずば、……この淨行はそれ限り不完全なり。されど、この法を瞿曇も成就し得、比丘も成就し得、比丘尼も成就し得、在家白衣淨行の優婆塞も、諸慾を樂める優婆塞も、在家白衣淨行の優婆夷も、諸慾を樂める優婆夷も成就し得るが故にこの淨行は完全なり。

瞿曇よ、恰も殑伽の河が海に傾き、海に向ひ、海に注ぎ、海に入りて靜なるが如く、此の如く瞿曇に從ふ者は、在家出家共に涅槃に傾き、涅槃に向ひ、涅槃に注ぎ、涅槃に入りて靜なり。(1)

是れ、一切の信者は終には涅槃に入るとの意にして、必しも直に出家と在家とを同一位に置くものにあらず。されば敎團の戒律にては比丘尼は比丘に對して重く敬意を表する義務ある如く、在家信者は出家行者を尊重し、之に服從して、在

家は出家に布施してその生活を支へ、出家は在家を敎導す。在家が施す物は財施(āmisa-dāna)にして、出家のは法施(dhamma-dāna)といひ(1)二者相助けて自利利他圓滿に僧伽を形成し、互に淨行を勵みて苦を滅して涅槃に向ふ。故に曰く

在家(sāgārā)と出家(anāgārā)と二者互に相依りて
無上安隱の正法を精勤す。
衣服、飲食、臥具は在家(之を施し)
畏怖の排除は出家之に酬い、
家主にして依處を求むる者は善逝に依賴して、
聖者を信じ、聖智のために禪思す。
かくて法を行ひ、善趣に到る道を(歩み)
天界にて歡喜し、欲樂を樂み悅ぶ。
二衆互に相依りて人天の快樂を受け、
生老病死を度りて淸凉涅槃に到る。(2)

此の如く二重道德の缺點は全く除き去る能はざるも、二者の相助くる點に於て

世俗生活の中にも佛道の修行あるを認めしは確にして、在俗の弟子に得道の人ありしは最も注意すべき事なり。在俗信者の女性に慈善活動の人ありし事は先に(二〇九頁)摘記せしが、優婆塞にも亦顯著なる人物に乏しからず。智慧深遠にして法說(dhamma-katha)に長ぜしマッチカー聚落(Macchikā-saṇḍa)の長者質多羅(梵Citra バーリ Citta)の如きは、佛陀との問答に於て哲理の造詣尋常ならざりしを示せり。(1) その他舍衞城の須達(Sudatta)長者は敎團の大施主にして又有德の人なり、阿羅毘(Āḷavi)の手長者(Haṭṭhaka)は四攝事の行に長じ、毘舍離の長者優竭(Ugga)は柔和の德にて聞こえ、アムバッタ(Ambaṭṭha)の勇長者(Sūra)は不壞の淨信を以て稱せられ、釋氏なる摩訶南(Mahānāma)は學德共に衆の尊重する所なりし等、得道の實例なり。されば摩訶南の問ひに答へて、佛陀は優婆塞の資格を數へ、正信、戒行、多聞、捨離(cāga)、智慧を擧げ(2) 又同じ人並に耆婆(Jīvaka)に對して優婆塞が此等の善行に於て自ら勵むと共に人を勵まし、法と法義(dhamma-anudhamma)に通達すべきを說きし(3) が如きは皆單に希望にあらずして、居士の中には此の資格を具へし人に乏しからざりしを示せり。

* * * * * * * * * *

在俗信者の外に佛陀並に佛弟子等は多くの外道、又は婆羅門の智者に接し、或は之と道交を結び或は之と論難したり。中にも婆羅門生聞(Jāṇussoṇi)、婆四吒(Vāseṭṭha)、堅固(Kevaddha)、種德(Soṇadaṇḍa)の如きは皆佛陀と法說を交換せし智者にして、彼等は正式に佛弟子とはならざりしも、その隨喜者にして又友人の如き交を結びしならん。此の如きは偶然にあらず、佛陀が婆羅門の宗敎並にその社會的法律に對する態度は、反對反抗にあらずして、之を利導し、その眞義を理想化して發揮するにありき(先一二九頁參照)。されば佛陀は僧伽の中にて四姓の平等を主張しつつ、社會が貴種として尊敬する婆羅門を解して眞に有德の人を指すものなりとし(先一八六—一九二頁參照)、古の婆羅門は名實共に貴族なりしとせり。此を以て大迦旃延は曾て婆羅門魯醯遮(Lohicca)に對して婆羅門の行を語つて曰く、(1)

古人は戒行を最上とし、
彼等は婆羅門にして古風を守り、
能くその關門を閉ざして守り、

怒りに勝ちたりき。

彼等は法と禪思とを樂み、

彼等は婆羅門にして古風を守りき。

然るに今は此等を捨て虛僞となり、

族姓を誇りて非法を行ふ。

怒りのために制せられ、甚しく自ら苦め、

過誤を敢てして彷徨し、

關門を守らずして空虛なる人は、

夢に他人の財を得たるに同じ。

食を斷じ又露地に臥し、

誦讀し、浴法を守り、三典を誦し

粗皮を着し、泥にて髮を塗り、

此を以て戒を守れりと思ひて苦行す。

僞善と欺誑と、杖と、水と瓶と、

此等を婆羅門の飾りとして、彼等は些細の名聲を博す。

心を能く靜め、寂靜にして穢れなく、

一切衆生の中に荊棘なきもの、是れ梵に至るの道なり。

是れ婆羅門の古今の變について又道行の眞僞を明かにしたるものにして、この點について婆羅門法(brāhmaṇa-dhammika)の說法に婆羅門の正法とその墮落とを明かにせるもの、佛敎の彼等に對する態度を明白にして遺憾なし。佛曾て祇園に在りし時、拘薩羅の耆宿婆羅門等佛の許に來詣して、婆羅門の法とその古法の正義とを問ふ。佛陀は之に答へて曰く、

昔時の諸仙は正念にして熱行し

五慾の德を棄てて自己の制御を行ひき。

婆羅門には牛畜もなく、金もなく財もなく、

禪思に入る寶を以て財とし、婆羅門の庫を守りき。

此くて彼等は自己の所有なく、只人の施に任せて生活し、無欲にして一生を戒行と智慧とに捧げしかば、世人も亦之に財施して吝まざりき。是れ婆羅門行者の

古法にして沙門の行と同一なり。又婆羅門が家居して在俗生活をなす場合にも、愛情によりて結婚し、正しく一夫一妻の道を守り、夫婦の間の法規を守りき。彼等の理想とする所は制欲と知足と忍辱にして、米食と住居と衣服との外には酥酪を食し、清淨に祭祀を行ひて曾て牛畜を犧牲とせざりき。彼等は牛畜を父母兄弟の如くに扱ひ、良友として之に對して芻食を與へて、牛畜が有らゆる恩澤を人間に與ふるを感謝するを忘れざりき。彼等は幼時より老年に至るまで婆羅門の務めを守り、爲すにも爲さざるにも勇猛なりしかば、人々は長生して多幸なりき。

然るに世の腐敗は漸く生じ、人々は惰弱となり、王宮の華奢傲奢を見、婦人の盛粧に心を惹かれ、車を良馬に牽かせ、彩色の布を蔽ひ、又家居を宮殿にし始めたり。牛畜、土地、美女等世の權家が有せるものを羨み、終に甘蔗 (Okkāka) 大王に強請して富を增さんとするに至れり。此に於て大王は諸の祭祀を營み、その報として婆羅門に種々の財寶を與へたり。此くして財を得、富を得、奢侈に長じて、婆羅門は益す慾心を增長し、渴するが如くに利益を求め、口實に次ぐに口實を以てして

王者に迫りぬ。かくて彼等は牛畜を犧牲とする事を始めしかば、溫順の家畜は罪なくして彼等の殺戮する所となりぬ。諸神も祖靈も皆之を見て悲嘆せしも、非行は終に遂げられて祭祀には牛を殺す事となりぬ。それより前には人間に貪欲と饑餓と老年との三病のみありしに、此より以後九十八の病を起しぬ。此くの如くにして憎むべき非行は社會の風習となり、婆羅門は之を以て常事となすに至れり。此の如くにして法は棄たれて社會に階級の爭ひあり、階級を分ちながら淫慾のためには尊貴を忘れて賤女に交る婆羅門或は刹帝利あり。

この言說の歷史としての價値は別として、この中に印度の社會狀態を反映する事は爭ふべからず。而して佛陀はその當時現在の狀態を非法とし、古代の婆羅門は名と實と、又種姓と行法と、共に貴種なりしを信じ、而して僧伽の戒行を以てこの古法の眞義を復興せんとしたるものなり。されば、この判斷は佛陀の當代に對する批評にして又自家の抱負を示し、キリストが法律を廢するためにあらず、法律を完ふするために世に來れりと信ぜしと同一の意氣信念を見るべし。

要するに佛敎の僧伽はその究竟の理想に於ては超世彼岸の解脫を目的とせ

しも、現世社會に處しては、獨り之と調和するのみならず、僧伽の力によりて民衆を導き、社會を教化し世法の眞義を發揮し、世俗を清淨にし、人の德を高めんとせしなり。佛陀が社會的改革者なりしといふ事は、この限りに於ては正當の評言なりといふべし。

第三章　僧伽と傳道

僧伽は人天一切の衆生を包括して、之を一乘の行道に導くための團體なり。その範圍には階級の區別をも問はず、國土の別をも論ぜず、法を聞きて證悟すべき人民あるかには、何れの國にも宣布せられざるべからず。この傳道的精神は佛敎の根本精神より自然に湧き出づべき僧伽の活氣なり。佛陀は梵天の乞を許して、衆生のために不滅の門を開き、鹿野に法輪を轉じ、六十人の弟子を得たる後には、直に彼等を四方に派遣したり。

比丘等よ、我れは一切人天の縛を解脫したり。比丘等よ、汝等も亦一切人天の縛を解脫したり。汝等遊化せよ、多人の幸福のために、多人の安樂のために、世間の憐愍のために、人天の利益、幸福、安樂のために。同一の道を二人して行く勿れ。比丘等よ、始めも善く、中も善く、終りも善く、義あり、文あり、特に完く、淨潔なる法を說け、又淨行を明かにせよ。汚れ少き生を受けたる衆生

もあらん、彼等は法を聞かずば終に滅亡せん、彼等は法を知る者とならざるべからず。(1)

此の如きもの即ち佛敎の布敎を世に宣言したる第一の師子吼なり。この精神は即ち佛陀一生の敎化遊行の大本にして、又實に佛敎に於ける傳道の源泉なり。かゝれば佛陀並に弟子等は一處不住にして、身を雲水に托して、一切所有住居の觀念を脫するを目的とせしも、(2)而かも彼等は遊行の間にも雨期の止住にもこの傳道の精神を忘れざりき。この精神は後世に四方宣敎の大事として世間を動かす大勢を作り出だせしが、佛陀の在世にも、佛陀の印度國內遊行の外、弟子等の間にも動き初めたるを見る。

一夏、佛陀が釋氏の國天現(Devadaha)の邑に住せし時、西方居住(pacchā-bhūma-gāmikā)の比丘等その故鄕に歸らんとて佛陀に別れを乞ひぬ。その時、佛陀は彼等の行を送り、且つ彼等をして舍利弗の敎を受けしめ、西方に歸りて後も正法を守り過誤なからしめん懇篤の注意を施せり。(3)此處に西方といへるは何れの地なるかを確め難きも、西方は佛敎の初期に於ける傳道の第一着をつけし地にして

長老大迦旃延(Mahākaccāna)は多く西方阿槃提(Avanti)族の國に止住し、その他の弟子も西方に向ひしものゝ如く、特に西方傳道の爲めに殉敎者の覺悟を抱きてその地に向ひし人あり。

或る時世尊舍衞城にて給孤獨の祇園に在ましき。その時長老富樓那(梵Pūrṇa-Maitrāyaṇīputra)來りて敎示を受け、受け了りて云つて曰く、

西方に輸屢那(梵Śrūṇā?パーリSunāparanta)と稱する國あり、我れその他に止住せんと思ふ。

西方輸那の人は兇惡にして粗野なり、若し輸那の人民汝を辱め汝を罵らば、汝は如何にすべきや。

西方輸那の人民若し我れを辱め我れを罵らば、我れは念ぜん、この人等賢にして善、拳にて我れを打つに至らずと。世尊善逝、我れ、斯く念ぜん。

彼等若し拳にて汝を打たば如何。

我れ斯く念ぜん、此の人等未だ石を以て我れを打つに至らずと。

彼等若し石にて汝を打たば如何。

我れ斯く念ぜん、この人等未だ鞭にて我れを打つに至らずと。若し又鞭にて打たば、彼等未だ劍を以て我れを打つに至らずと念ぜん。若し又劍にて我れを殺さば、我れは斯く念ぜん、世尊の弟子には身體をも生命をも輕んじ、自ら劍にて死せんとするものあり、今我れ自ら劍を求めざるに、輸那の人民我れに劍を與ふ。世尊、善逝、我れは此く念ぜんのみ。

善いかな、善いかな、富那、汝にこの忍耐あり、以て西方輸那人の間に行くに足るべし。今汝の欲する儘に行け。

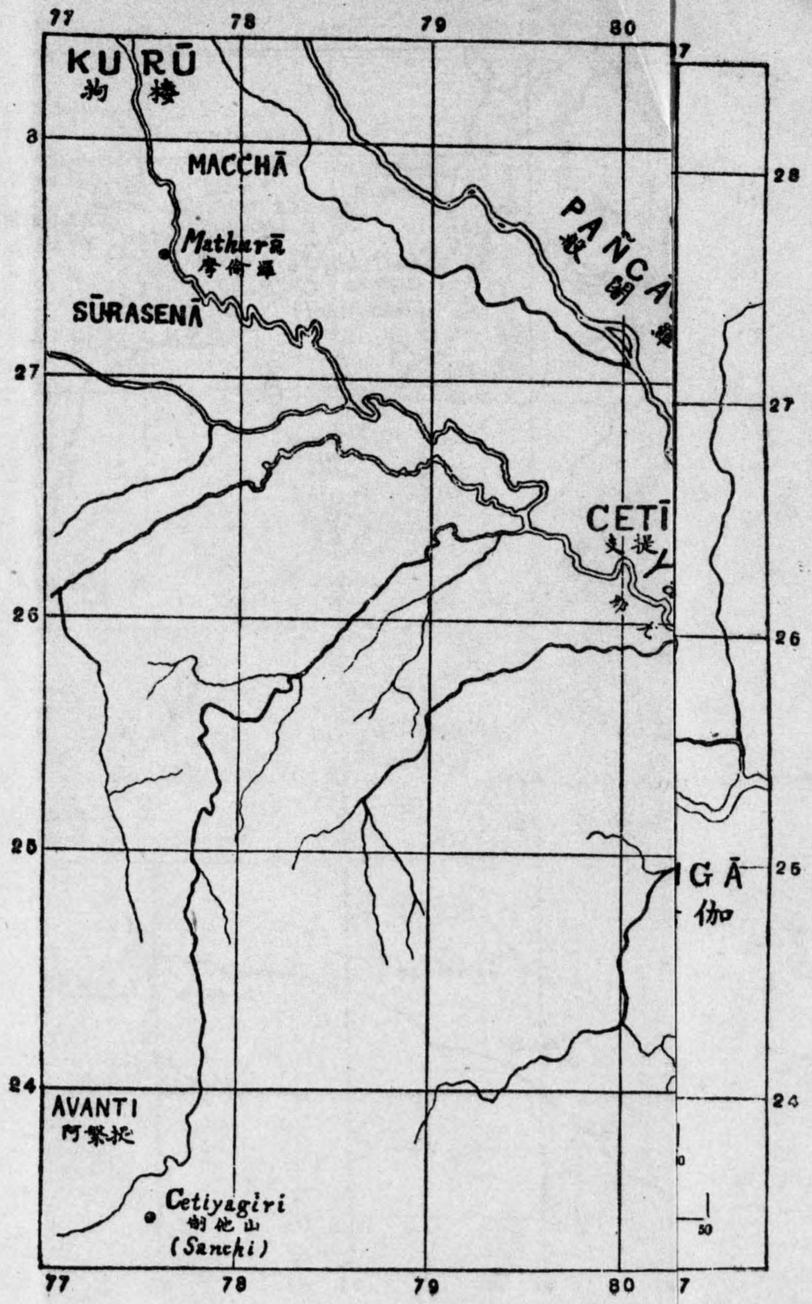
かくて長老富那は世尊の敎示を歡受して、世尊に別れを告げ、恭敬を表し、座を起ち、衣鉢を執つて、西方輸那の國に向ひて旅立ちし、今までにせざりし旅路を經てその國に着し、彼等の間に止住しぬ。かくて雨期の間に五百の在俗信者を得、自らは三明を得て、終に入滅せりといふ。[1] この記述に見れば輸那の地は蠻地なるべく、想像するにインド河以西の地にありしなるべし。

尙又一傳にては[2] 衆多の比丘、舍衞城より北方の地に遊化せんとしたるものあり。彼等はこの決心を齎らして佛陀に訣別せしかば、佛陀は彼等が出發に先

ちて舍利弗の敎示を仰ぐべしと命じぬ。舍利弗は彼等に告げて曰く北方の人民は聰明にして論議に長ぜり、若し彼等にして來りて問難を試みんには如何にするや』と。舍利弗は尙彼等に無常、苦、無我、空の四法を說明し、八正道と七菩提分とを敎示して彼等を北方に送りしといふ。こゝに所謂る北方の地は何れの國を指すや明白ならざれども、その人民が聰明にして論議に長ぜりといふを見れば、西北印度の婆羅門多く、古典の研究盛なる地を指せるなるべし。本生經に照らし見れば、西北印度は當時婆羅門敎學の中心にしてタッカシーラー(Takkhasila)の地は中印度の人民が多く留學せし處なり。而して佛陀自らも時としては西北拘樓(Kuru)族の都邑なる劍磨瑟曇(Kammāsadamma)に止住せし事[1] あるを思へばこの西北方面は夙に佛敎の傳道地にして、弟子等の中尙進みて遙かに西北の地に傳道せしものありし跡は此に見るべし。

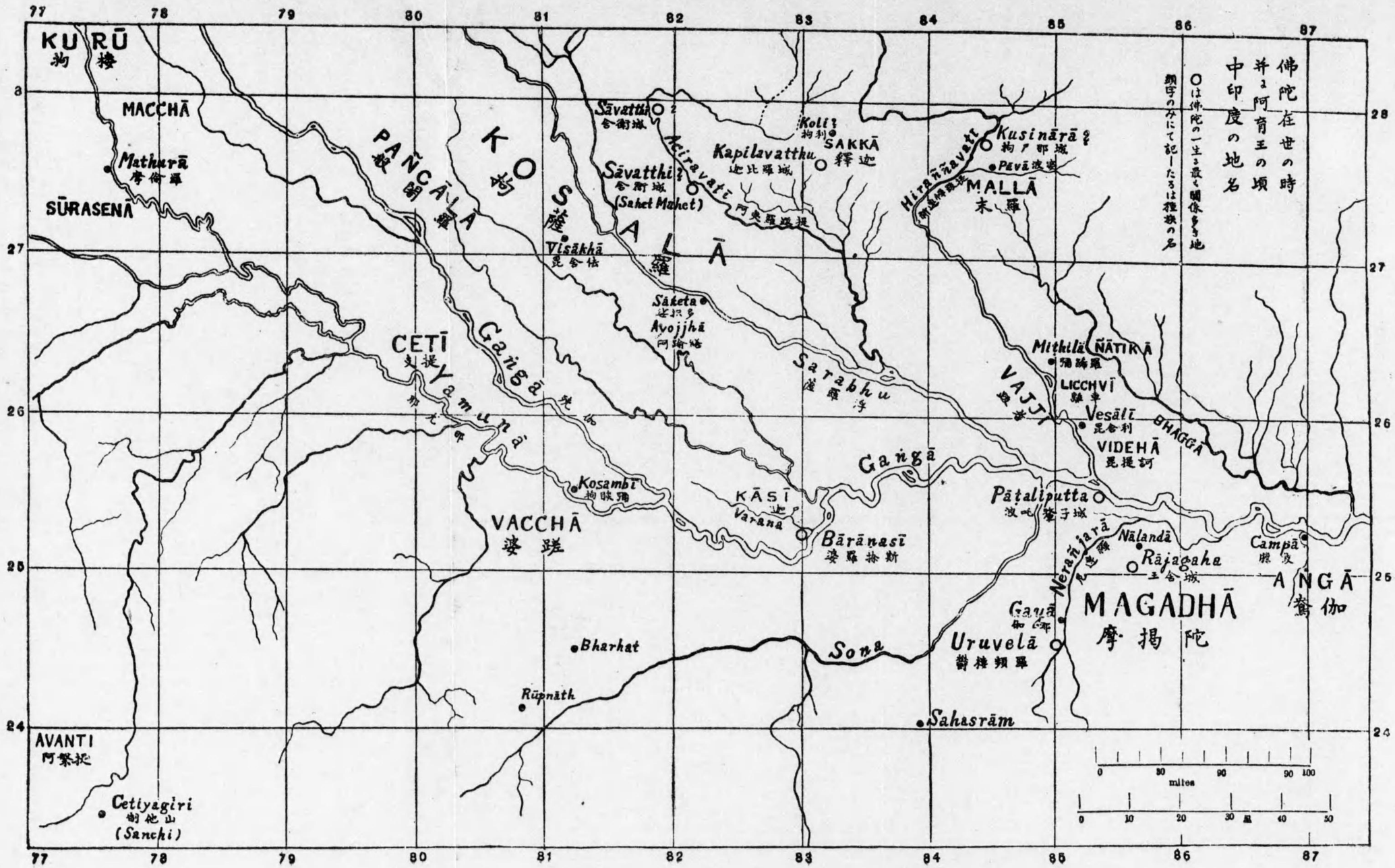
* * * * * * * * *

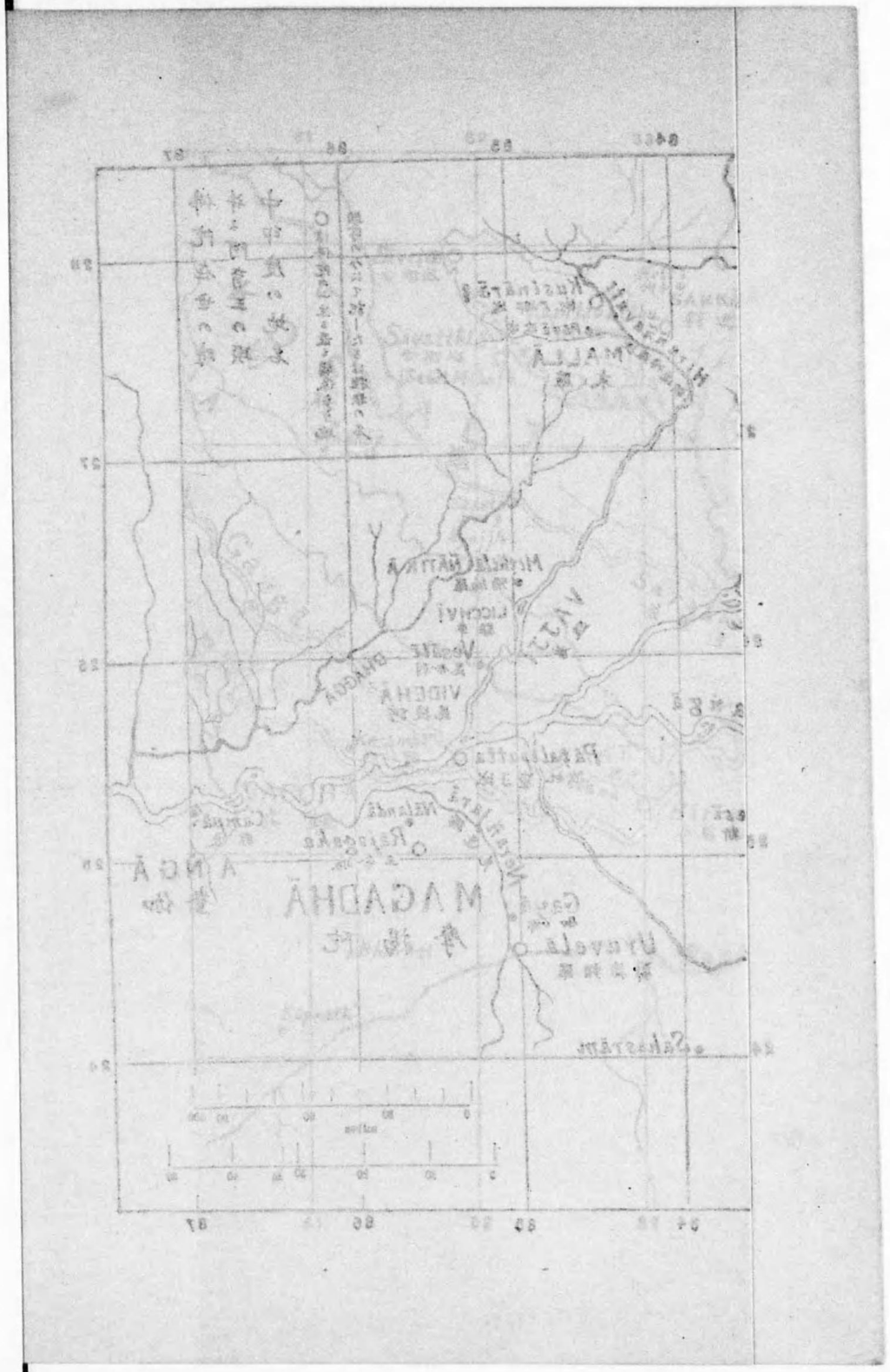
佛敎が國民の區別を超越して、人天遍通の敎を傳へ、その寂靜解脫の感化を四方に宣布せしは偶然の事にあらず。佛陀の一生とその人格とはこの大歷史の



源泉となり、その深遠の教法は人心の奥に感化の秘音を傳へその僧伽は印度より四境以外の國々に擴張せられたり。佛教僧伽の傳道精神は、佛陀の滅後二百年にして大王阿育(Asoka)の信力によりて、世界を掩ふ實力となり、その餘薫德風は近世文明の今日に至りて、再び洋の東西に新生命を發揮せんとす。根本を二千數百年前の印度に養ひ、枝葉をアジア全大陸に繁茂せしこの大宗教の花實は何れの時に開き且つ結ばるべきや。根本佛教の大要を述べ來りて『源遠ければ流れ長し』の言を想起せずんばあらず。

根本佛教 畢


佛陀在世の時
并ぶ阿育王の頃
中印度の地名
○は佛陀の一生を最も關係多き地
朗字のみにて記したるは種族の名
KURU
拘樓
MACCHĀ
Mathurā
摩偷羅
SŪRASENĀ
PAÑCĀLA
般闍羅
KOSALĀ
拘薩羅
Sāvatthi
舍衛城
Sāvatthi
舍衛城
(Sahet Mahet)
Kapilavatthu
迦毘羅城
SAKKĀ
釋迦
Koli
拘利
Kusinārā
拘尸那城
Pāvā
波婆
MALLĀ
末羅
Visākhā
毘舍佉
Sāketa
娑訶多
Ayojjhā
阿踰陀
CETĪ
支提
Yamunā
Gaṅgā
Sarabhu
Mithilā
彌緊羅
NĀTIKĀ
LICCHVĪ
離車
VAJJI
Vesālī
毘舍利
VIDEHĀ
毘提訶
BHAGGA
Gaṅgā
Kosambī
拘睒彌
KĀSĪ
迦
Varanā
VACCHĀ
婆蹉
Bārānasī
婆羅捺斯
Pāṭaliputta
波吒釐子城
Nālandā
Rājagaha
王舍城
Campā
瞻波
ANGĀ
伽
Nerañjarā
尼連禪
MAGADHĀ
摩揭陀
Gayā
伽倻
Uruvelā
鬱樓頻羅
Sona
Bharhat
Rūpnāth
Sahasrām
AVANTI
阿槃提
Cetiyagiri
制他山
(Sanchi)
0 30 60 90 100
miles
0 10 20 30 40 50
里



參照、引用文並に索引

引用書略符

D.	Dīgha-nikāya.
M.	Majjhima-nikāya.
S.	Saṃyutta-nikāya.
A.	Aṅguttara-nikāya.
Dh.	Dhammapada.
Ud.	Udāna.
It.	Iti-vuttaka.
Sn.	Sutta-nipāta.
Th. 1.	Thera-gāthā.
Th. 2.	Therī-gāthā.
Ja.	Jātaka.
Vin.	Vinaya.
Vin. 1.	同上 Mahā-vagga.
Vin. 2.	同上 Culla-vagga.
Ch. Ag.	The Four Buddhist Āgamas in Chinese.
B. C. G.	Buddhist and Christian Gospels.
現法	現身佛と法身佛

以上の外は『現身佛と法身佛』の引用に同し。法華經の梵本は南條博士の寫本を恩借してロマ字に書寫したるものに據る。

參照並に引用文

第一篇

P. 10. (1) 先 p. 2 を見よ。

第二篇

P. 18. (1) 上世印度宗教史 pp. 121-131 參照。

Upaniṣad と稱する典籍の數は多きも、その主要なるものは十二三なり。之を四類に分ち得べし。

1. Kauṣītaki, Aitareya, Taittirīya.
2. Chāndogya, Bṛhadāraṇyaka.
3. Kāṭhaka, Īśa, Kena
4. Muṇḍaka, Praśna, Śvetāśvatara, Maitrāyana. 等

第一類は大部分散文にて儀式の說明特に多し。第二類は韻文を加ふる事多く，儀式の考察より哲學的思辨に進み重要の思想を含む。第三類は多くは韻文にして哲學的思辨の高潮をなす。第四類は散文韻文錯雜し，その思想は各異方面に發達せんとする傾向見ゆ。この四類の順序は，大體にて成立時代の順序に相當し，第四類は佛教の興りし頃と前後せしならん。

P. 19. (1) 先 p. 14 を見よ。

第三編

P. 39. (1) **Th. 1. 69.**

P. 40. (1) **S. I. 5. 5**; 同本 雜 (晨四 97a)

Anoma-nāmaṁ nipuṇattha-dassiṁ	得無上之名	必見眞實義
paññā-dadaṁ kāma-laye asattaṁ,	成就大智慧	於欲不染着
taṁ passatha sabbaviduṁ sumedhaṁ,	慧者當觀察	救護世間者
ariye pathe kammānaṁ mahesiṁ ti.	得賢聖道跡	是則大仙人

P. 40. (2) S. 35. 132; 同本 雜 (辰二52)。

P. 40. (3) S. 45. 4; 同本 雜 (辰三64a)。

P. 42. (1) Sn. vv. 911-912; 同本 義足經 (宿五63)。

S. B. E. Vol. X. Part II. p. xiii 參照。

P. 42 (2) S. 12. 33; 同本 雜 (辰二81a)。

參照。 雜 (辰二76b 最後行)。

A. III. 42.

P. 43 (1) S. 55. 2; 現法 p. 90. 參照。

Catuhi dhammehi samannāgato ariyasāvako sotāpanno hoti, avinipāta-[para]dhammo, niyato, sambodhi-parāyano. Katamehi catuhi? Idha ariyasāvako Buddhe avecca-ppasādena samannāgato hoti: iti pi so Bhagavā arahaṃ *pe* satthā deva-manussānam, Buddho Bhagavā ti. Dhamme avecca-ppasādena, saṅghe aveccapasādena, ariya-kantehi sīlehi samannāgato, akhaṇḍhehi sīlehi samannāgato, samādhi-saṃvattanikehi sīlehi samannāgato hoti. .....

Yesaṃ saddhā ca sīlañ ca pasādo dhamma-dassanaṁ,
te ve kālena paccanti, brahmacariyogadhaṁ sukhan ti

P. 45. (1) S. 56, 11. (Dhamma-cakka-ppavattana);

同本(安世高譯)轉法輪經(辰六16b) 他の諸本にこの文なし。

Yo câyam kāmesu kāma-sukhallikânuyogo hīno gammo pothujjaniko anāriyo anattha-saṃhito; yo câyam atta-kilamatthânuyogo dukkho anāriyo anattha-saṃhito. Ete kho bhikkhave ubho ante anupagamma majjhimā paṭipadā, Tathāgatena abhisambuddhā, cakkhu-kāraṇī ñāṇa-kāraṇī upasamayā abhiññāya saṃbodhāya nibbāṇāya saṃvattati.

世間有二事, 墮邊行, 行道弟子捨家者, 終身不當與從事, 何爲二, 一爲念在貪欲, 無清淨心, 二爲猗着身愛, 不能精進, 是故退邊行, 不得値佛, 道德人若此, 比丘不念貪欲著身愛, 行可得受中, 如來最正覺, 得眼, 得慧, 從兩邊度, 自致泥洹。

同文 Vin. 1. 1. 6. 17.

S. 42. 12.; 同本 雜 (辰三87b)。

P. 49. (1) D. 8. Kassappa-sīhanāda; 同本 長 裸形梵志 (炎九 81a)。

M. 45. Cūḷa-dhamma-samādāna; 同本 中 174. 受法 (炎七 22)。

A. VIII. 12. 同本 中 18. 師子 (炎五 21ab)。

M. 94. Ghotamukha (還Vol. II. pp. 560-561)

D. 25. Udumbarika; 同本 長 8. 散陀那 (炎九 40)。

その他大般涅槃經 (盈五 36b), 理趣六波羅密經 (閏十五 38ab)。

P. 50. (1) D. 8.; 同本 長, 25. (炎九 84b)。

P. 50. (2) Th. 2. vv. 240-243. その他水淨行事の罪を淨むるに足らざるを明にせる文。

M. 7. Vatthūpama; 同本 中 93. 水淨梵志 (炎六 12f); 雜 (辰四 55); 別雜 (辰五 35b); Ud. I. 9.

P. 50. (3) Lokāyatika. Madhva の Sarvadarśana-saṅgrahaによれば順世外道が一切の祭祀を攻擊して歌ひし歌あり。

P. 51 (1) M. 70. Kīṭāgiri; 同本 中 195. 阿濕貝 (炎七 53)。

P. 51 (2) 增阿, 二十二品第三經 (炎一 50b)。

P. 51 (3) S. 36. Vedanā-saṃyutta; 同本 雜 (辰二 97 以下)。

P. 52 (1) S. 36. 5; 同本 雜 (辰二 97a)。

Yo Sukhaṃ dukkhato adda,	觀樂作苦想
dukkhaṃ adakkhi sallato,	苦受同劍刺
adukkhaṃ asukhaṃ santaṃ	於不苦不樂
adukkhaṃ asukhaṃ;	修無常滅想
Sa ve sammāddaso bhikkhu	是則爲比丘
parijānāti vedanā,	正見成就者
diṭṭha-dhamme anāsavo,	寂滅安樂道
kāyassa bhedā dhammattho	住於最後邊
sankhaṃ n'upeti, ve lagū'ti.	永離諸煩惱 摧伏衆魔軍。

參照。 S. 36. 12. 同本 雜 (辰二98a)。

P. 51 (1) 先 p. 32 を見よ。

第四篇

P. 62 (1) Vin. I. I. 6. 10-16; 同本 四分律 卅二 (列五 8a)
五分律 十五 (張一 90b)。

P. 63 (1) Vin 1. I. 6. 19-22.
S. 56. 11. 同本 (安世高譯) 轉法輪經 (辰六 10b)。
梵文は先 p. 58 を見よ。

P. 65. (1) 雜 (辰二 85b)。

P. 66. (1) Yoga-sūtra, II. 25.

P. 68. (1) 上 p. 63 (1) に同じ。

P. 70. (1) A. IV. 8. 同本 增 (昃一 81a)。
增阿には偈文なし, 偈は雜 (辰四 50b), 別雜 (辰五 34b) にあり,
共に S. 47 1. Uruvelā に當る經の最後なり。

P. 70. (2) 十力四無所畏。
S. 12. 12; 同本 雜同 (辰二 79b)。
A. X. 21. Sīha, 同本 增 (昃三 24-25)。
五力等 A. V. 11; A. VI. 64; 雜 (辰三 52)。

P. 70 (3) 現法 p. 202 參照。

P. 70 (4) Svetāśvatara-up. 1. 6. and 6. 1.

P. 71 (5) Bhagavad-gītā. 3. 15-16.

P. 71 (1) Lalita-vistraa (ed. Lefmann), pp. 419-415.
同本 方廣莊嚴經 (宙四 90a)。

P. 72 (1) Brahma-āyācana.
Vin. I. 5; 同本 五分律十五 (騫一 55), 四分律卅二 (列五 7ab)。
M. 26. Ariyapariyesana (Vol. I. pp 168-169); 中阿脫之。
S. 6. 1. 1. Āyacana. 雜阿缺之.
Mahāvastu (Vol. III. pp. 317-319); 同本 本行集經 卅三卷 (辰八 49)。
Lalita-vistara (ed. Lefmann, p. 398); 同本 方廣莊嚴經 (宙四 53b)。
參照 現法 pp. 27-37.

P. 74. (1) Gārava.
S. 6. 1. 1. Gārava,; 同本 A. IV. 21. Uruvelā;
同本 雜 (辰四 55b-56a), 別雜 (辰五 34a)。
參照 有部毘奈耶藥事 (寒四 14b), 有部毘奈耶 (張九 66b, 87b)。
大毘婆娑 (收八 28b), 大智度論 (往一 23b)。
現法 pp. 244-245 參照。

P. 76. (1) 現身佛と法身佛 pp. 242-243.
S. 47. 18. Brahmā; 同本 雜 (辰四 56), 別雜五 (辰三 34)。
S. 47. 43. Magga.

P. 78. (1). Saddharma-puṇḍarīka. II. Upāyakauśalya;
同本妙法蓮華經 方便品 (盈一 13ab)。
ye ca apy abhūvan purimās Tathāgatāḥ
parinirvṛtā Buddha-sahasraneke
atītam adhvānam asaṃkhya-kalpe
teṣāṃ pramāṇaṃ na kadāci vidyate. (7) &c.

P. 81 (1) Vin. 1. I. 6. 30. その他 p. 63 (1) に同じ。

P. 82 (2) Vin. 1. I. 6. 32-37. その他同上。

P. 82 (2) M. 26. Ariyapariyesana (Vol. I pp. 167 & 173);
同本 中 204. 羅摩經 (昃七 74a & 75b)。
現法 pp. 21-23 に本文あり。

P. 83 (1) M. 22. Alagaddūpama (Vol. I. pp. 139-140);
同本 中 200. 阿黎吒經 (昃七 66a)。

P. 85 (1) S. 22. 94; 同本 雜. (辰二7a)

P. 86 (1) 現法 pp. 82-83.
M. 18. Madhupiṇḍika (Vol. I. p. 111)。
同本 中 115. 密丸喩經 (昃六 36a)。
M. 133. Kaccāna-bhad; 同本 中 165. 溫泉林天經 (昃七 11a)。
A. X. 172. S. 35. 116.

P. 87. (1) J. R. A. S. 1898, pp. 103-108 參照。
大智度論 (往一 19a & 67a)。

P. 88. (1) It. 112; 同本 A. IV. 23; 中 137 世間經。
本文は 參照 最後を見よ。

P. 88 (2) S. 35. 135.
S. 22. 94.; 同本 雜 (辰二 7a)。

P. 88 (3) M. 102. Pañcattaya.

P. 88 (4) M. 123. Acchariyadh.;
同本 中 32 未曾有法經 (民五 45b)。
Idha Tathāgatassa viditā vedanā uppajjanti, viditā uppaṭṭhanti, viditā abbhatthaṃ gacchanti; viditā saññā..... ...; viditā vitakkā .....; idam Tathāgatassa acchariyam abbhuta-dhammam dharahi.
如來知覺生, 知住, 知滅, 常無不知時, 如來知思想生, 知住, 知滅, 常無不知時。
參照 現法 p. 86 (3)。

P. 88 (5) 後八篇六節を見よ。

P. 90 (1) M. 31. Gosiṅga; 同本 中 185. 牛角娑羅林經 (民七37b)。

P. 90 (2) 現法 p. 72. (1) 八行と九行との間に下の句を加ふ。
Idam pi vuccati Tathāgata-padam iti pi, Tathāgata-nivesitam iti pi, Tathāgata-rañjitam iti pi.

P. 90 (3) 現法 pp. 74-75.

P. 91 (1) S. 48. 9-10.
Idha ariya-sāvako saddho hoti, saddahati Tathāgatassa bodhim; iti pi so Bhagavā arahaṃ.....ti.
現法 pp. 88-89 參照。

P. 93. (1) 上 p. 88 (1) に同じ。 本文は參照最後にあり。

P. 94. (1) 現法 pp. 90-91 (3).
S. 22. 58; 同本 雜 (辰二 16a)。
このパーリ文最後の行 idaṃ と paññā-vimuttena の間に下の文を脱したり。
nānā-karaṇaṃ Tathāgatassa arahato Sammāsambuddhassa. 又雜の文は現法 p. 81 (2) にあり。

尙同文 S. 8. 7; 同本 雜 (辰四 63a), 別雜 (民五 76)。

M. 108. Gopakamogg. (還 Vol. III. p. 95) 此分漢譯缺く。

第五篇

P. 99 (1) M. 36. Mahāsaccaka; 雜 (辰二 30)。 現法 p. 108 參照。

P. 102 (1) A. III 38-39. Sukhumāla;
同本 中 117. 柔輭經 (民六 39)。

P. 102 (1) M. 26 Ariyapariyesana (vol. I. p. 163);
同本 中 204. 羅摩經 (民七 74a 十三行目)。

P. 105 (1) M. 58. Abhaya-rājakumāra.

P. 105 (2) 佛陀成道前後の記述。

I. 全體を記述せる主文。
M. 26. Ariyapariyesana (vol. I. pp. 163-173); 同本 中 204. 羅摩經 (民七 74-75)。
M. 36. Saccaka (vol. I. pp. 240-249).
M. 80. Bodhirājakumāra (還 vol. II. pp. 434-460).
Vin 1. I. 1-6; 同本 五分律 (張一 89a-91a), 同本 四分律 (列五 5b-8b).

II 出家前の生活
(a) 五欲生活の記述—A. III. 38 Sukhumāla;
同本 中 117. 柔輭經 (民六 39).
(b) 五欲の厭忌并に追懷—
M. 75. Magandiya (vol. I. 504f); 同本 中 153. 鬚閑提 (民六90).
S. 35. 117. Lokakāmaguṇa; 同本 雜 (辰二 43b).
(c) 聖道欣求即ち聖求—
M. 26. (p. 163); 中 204 (辰七 74a, 我本.....涅槃).

III 出家修行
(a) 諸師に就遊して之に滿足せず,菩提樹下に靜坐まで—

同文 M. 26. (pp. 163-167); 中 204 羅摩經 (昃七 74a 十五行より 47b 十四行まで)。
M. 36. (pp. 163-167; 本文略).
M. 85. (還 pp. 434 後半— 439).

(b) 苦行無益の思惟, 三喩—

M. 36. (pp. 240-243). 同文 M. 85 (還 pp. 439-442).

(c) 生死超越の希求思惟—

M. 26. (pp. 167); 中 204 羅摩經 (昃七 74b 後七行)。

IV. 修行静坐中の思惟—

(a) 他の沙門行者の内心畏怖あるを憐む—

M. 4. Bhayabherava; 同本 增 (昃二 10).

(b) 生死の因, 五蘊の分析—

同文 S. 12. 10. Gotama (vol. II. p. 10);
S. 12. 65. Nagare, § 2-15 (vol. II pp. 104-105);
同本 雜 (辰二 65b), 增 (昃二52b).

(c) 此の思惟によりて古人の跡を求め得たり—

S. 12. 65. Nagare; § 16-33 (vol. II. pp. 105-107); 同本同上。

(d) 四大の成立并に流轉無常—

S. 14. 31. Pubbe (vol. II. p. 170).

(e) 五蘊の味并に過患—

S. 22. 26. Assāda (vol. III. p. 27); 同本 雜 (辰二 2b).

(f) 六入の滅— S. 35. 13. Sambodhena (vol. IV. pp. 6-8).

(g) 三受の性質— S. 36. 24. Pubbe ñānam (vol. IV. pp. 233-234).

(h) 四念處— S. 47 31. Anussutam (vol. V. p 179).

(i) 四神足— S. 51. 11. Pubbe (vol. V. p. 263).

(j) 四神足の道-- S. 51. 21. Magga (vol. V. p. 281).

(k) 止息, 天上想— S. 54. 8. Dīpa (vol. V. p. 317).

(l) 世間, 無常, 苦— A. III 101. Pubbe (vol. I. p. 258f).

(m) 山海等五夢— A. V. 196. Supinā (vol. III. pp. 240-242)

(n) 諸天の光明が明滅するを見る—

A. VIII. 64. Gayā (vol. IV. pp. 302-305);
同本 中 73. 天經 (昃五 100-101a); 重複 (昃五 98-99).

(o) 忍と思惟— 增 (昃二 29b).

(p) 七使七覺支— 增 (昃二 96).

(q) 苦行者との問答— (昃二 73b).

(r) 樵薪の喩— 雜 (辰二 65); 喩のみは S. 12. 52.

V. 魔族との健闘—

S. 4. 3. 4.-5. (vol. I. pp. 122-127); 同本 雜 (辰四 25b-26); 別雜 (辰五 10-11a).
類似 增 (昃三 11b 四行—12a).

VI 成道に近く.—

(a) 餓死を免れて心をとり直す.—

同文 M. 36. (vol. I. pp. 242 後半— 247).
M. 85. (還 vol. II. pp. 442-449).

(b) 有無の見を斷ず—

M. 19. Dvedhāvitakkā (vol. I. pp. 114-116);
同本 中 102. 念經 (昃六 24a—b 三行).

(c) 四禪三明成就—

同本 M. 19. Dvedhā. (vol. I. pp. 117);
同本 中 102 念經 (昃六 24b 四行—九行).
M. 4. Bhayabherava (vol. I pp. 22-23); 同本 增 (昃二 10).
M. 36. (vol. I. pp. 248-249).
M. 85. (還 vol. II. pp. 117).

A. IX. 41. Tapussa, § 4-13 (vol. IV. pp. 439-448). 諸天想。

(d) 四禪—

中阿 157. 黄蘆園經 (昃六 97f). (Pāli 文は成道前とせざるも漢譯には之を記す).

同本. A. VIII. 11. Verañja (vol. IV. pp. 176-179).
Vinaya, Pārājika, 1. 1.
上記 Majjhima 諸本と同文

(e) 邪路閉息—

M. 4. Bhayabherava (vol. I. p. 23)

M. 19. Dvedhā. (vol. I. pp. 177 後半一 118); 中 念經 (民六 24b).

VII. 成道後四週間の思惟, 二商人通過.

(a) 初七日樹下—

同文 Vin. I. 1. 1. Bodhikāthā. (pp. 1-2);
同本 五分律 十五卷 (張一 89a 十八行—89b三行).
同本 四分律 卅一卷 (列五 6b).
Udāna, I. 1-3. Bodhi; 同本 本行集經 (辰八 43b).

(b) 一異道との問題 (第二七日).—

同文 Vin. 1. I. 2. Ajapāla-kāthā (pp. 2-3).
Ud. I. 4. Nigrodha; 同本 本行集經 (辰八 48a 四行一八行).

(c) 龍王 (第三七日)—

同文 Vin. 1. I. 3. Mucalinda-kāthā (p 3).
Ud. II. 1. Mucalinda; 同本 本行集經 (辰八 44a).

(d) 二商通過 (第四七日)

Vin. 1. I. 4. Rājāyatana-kāthā (pp. 4-5).

以上三七日の分は

五分律 (張一 89b); 四分律 (列五 6b); 本行集經 (辰八 43b).

VIII. 成道の自信, 宣布の躊躇, 梵天勸請。 先 p. 72 (1) に同じ。

同文 M. 26 (pp 167-169); 同本 中 缺之。
M. 85 (還 pp. 452-454).
S. 6. 1. 1. Brahmāyacana (vol. I. pp. 136-138); [同本 雜阿 等缺之]。
Vin. 1. I. 5. Brahmāy. (pp. 4-7). 同本 四分律 (列五 7a-7b六行); 五分律 (張一 90a).

IX. 梵天との問答

(a) 尊法—A. IV. 21. Uruvelā (vol. II. pp. 20-21). 先 p. 74 (1) に同じ。

S. 6. 1.1. Gārava; A. IV. 21. Uruvelā. 同本 雜 (辰四 55b-56a); 別雜 (辰五 34a).

(b) 一乘— S. 47. 18. Brahmā [同 S. 47. 43. Magga].

同本 雜 (辰四 56); 別雜 (辰五 34a). 先 p. 76 (1) に同じ。

X. 說法對衆の思惟, Upaka との問答, 五比丘遊遁。

同文 M. 26. (pp. 170-173前半); 中 204. 羅摩經 (民七 75a).
M. 85. (還 pp. 455-46 前半).
Vin. 1. I. 6. § 1-16 (pp. 7-10);
同本 四分律 (列五 7b 七行以下); 五分律 (張一 90b 十二行まで).

XI. 轉法輪

同文 S. 56. 11. Tathāgatena vutte (vol. V. 421f);
同本 安世高譯 轉法輪 (辰六 10b) 等。
Vin. 1. I. 6. § 17-32 (pp. 10-12);
同本 四分律 (列五 8a); 五分律 (張一 90b十 三行—91b).

XII. 轉法輪後部.

Vin. 1. I. 6. § 33-47 (pp. 12-14);
同本 四分律 (列五 8b); 五分律 (張一 91a).

XIII. その他成道前後の記事にして大體 Pāli 佛典に同じきもの

衆許摩訶帝經七卷 (辰十 71-94b).
因果經 (辰十16b-20). [本起經諸本は甚だ異なり]。

P. 106 (1) S. 4. 3. 5. Duhitaro; 同本 雜 (辰四 26a), 別雜 (辰五 10b).
P. 110 (1) A. VI. 43. Nāga; 同本 中 118. 龍象經 (民六 38b).
P. 112 (1) M. 89. Dhammacetiya;
同本 中 213. 法莊嚴經 (民七 89f).
P. 113 (1) M. 109-110. Puṇṇaka; 同本 S. 22. 82; 雜 (辰二 12).
P. 113 (2) D. 2 Sāmaññaphala; 同本 長 29. 沙門果經 (民九 87f).
P. 114 (1) M. 32. Gosiṅga;
同本 中 184. 牛 角娑羅林經 (民七 34-35).
P. 115 (1) M. 18. Madhupiṇḍika;
同本 中 115. 蜜丸喩經 (民六 35b).
P. 115 (2) S. 7. 2. 8.; 同本 雜 (辰四 54), 別雜 (辰五 32).
P. 116 (1) S. 1. 4. 9.; 同本 雜 (辰四 80a), 別雜 (辰五 88a).

尙 S. 1. Devatā 及び 2. Devaputta の二Saṃyutta は全部この類の靜坐中の問答なり。

P. 117 (1) S. 54. 11.; 同本 雜 (辰三 69).
S. 45. 11-12; 同本 雜 (辰二 99b).
P. 118 (1) S. 35. 202; 同本 雜 (辰四 50-51).
P. 118 (2) S. 4. 2. 4; 同本 雜 (辰四 27b).
P. 118 (3) M. 86. Aṇgulimāla. Ch. Āg. p. 65 を見よ。
P. 118 (4) S. 3. 2. 5; 同本 雜 (辰四 70a), 別雜 (辰五 21b).
P. 119 (1) 波斯匿のその祖母を失ひしを慰む
S. 3. 3. 2; 同本 雜 (辰四 67b), 別雜 (辰五 18b).
婆羅門尼婆四吒かその六子を失ひしを慰む
Th. 2. v. 133f., 雜 (辰四 52) 別雜 (辰五 30).
P. 119 (2) 須達長者の婦善生を教化す。 下 p. 207-208 を見よ。
P. 119 (3) 婆羅門 Ujjaya (漢譯には優波迦 Upaka) の祭祀を說諭す。——
A. IV. 39; 同本 雜 (辰二 18-19), 別雜 (辰五 29a).
P. 119 (4) 有名なる六方禮拜の說法。 下 pp. 133-134 を見よ。
P. 119 (5) S. 55. 6; 同本 雜 (辰三 79).
現法 p. 119 を見よ
P. 120 (1) 現法 pp. 61-63 を見よ。
P. 120 (2) A. V. 30; 同本 雜 (辰四 74).
P. 123 (1) S. 8. 7; 同本 雜 (辰四 63), 別雜 (辰五 76), 增阿 (民二 19).
Māhavastu, vol. I. p. 255 參照。
P. 123 (2) S. 47. 13; 同本 雜 (辰三 44a).
P. 123 (3) S. 47. 14; 同本 雜 (辰三 44b).
P. 123 (4) S. 22. 88; 同本 雜 (辰四 9b).
P. 123 (5) S. 55. 27; 同本 雜 (辰四 11).
P. 124 (1) Vin. 2. 7; 同本 四分律 (列六 5f), 五分律 (張二 46f).
P. 124 (2) S. 6. 22; 同本 雜 (辰四 17a), 別雜 (辰五 2a).
同文 S. 17. 35-35; A. IV. 68.
P. 124 (3) A. IV. 62; A. VIII. 7-8.
P. 124 (4) M. 58. Abhaya-rājakumāra.
S. 46. 56; 同本 雜 (辰三 55).

P. 124 (5) D. 2. Sāmaññaphala (vol. I. p. 85);
同本 長 27. 沙門果經 (民九 88b).
P. 124 (6) 先 p. 118 (4) に同じ。
P. 125 (1) D. 16. Mahāparinibbāna. Ch. Āg. p. 36 を見よ。
P. 127 (1) D. 16. 同上 VI. 1; 長 (民九 22a 第六行) &c.
"Vaya-dhammā saṅkhārā, appamādena sampādethā" ti, ayaṃ Tathāgatassa pacchimā vācā.
P. 131 (1) A. III. 64. Sarabhu; 同本 雜 (辰三 105), 別雜 (辰五 69b).
P. 132 (1) A. IV. 185. Sacca; 同本 增 (民一 75b).
B. C. G. p. 168 を見よ。
P. 132 (2) 先 p. 119 (3) に同じ。
P. 133 (1) M. 7. Vatthūpama; 同本 雜 (辰四 55), 別雜 (辰五 32b).
P. 133 (2) D. 31. Siṅgālaka; 同本 長 17. 善生 (民九 58f).
Ch. Āg. p. 37 及 52 を見よ.
P. 135 (1) M. 56. Upāli; 同本中 133. 優波離經 (民六 55f)
P. 141 (1) 先 p. 118 (3) に同じ。
P. 142 (1) Vin. 1. I. 15-20; 同本 四分律 (列五 12f), 五分律 (張一 91f).
P. 142 (2) 四分律 (列五 10b); 增阿 (民一 63a).
P. 142 (3) A. III. 60. Saṅgārava; 同本 中 143. 傷歌羅經 (民六 75).
B. C. G. p. 117 參照。
P. 543 (1) 現法 p. 115 を見よ。
P. 144 (1) Th. 2. v. 148-150.
P. 145 (1) M. 107. Gaṇaka-Moggallāna;
同本 中 144 算數目揵連 (民六 75).
P. 147 (1) A. V. 131.
Tathāgato arahaṃ sammāsambuddho atthaññū, dhammaññū, mattaññū, kālaññū, parisaññū;.....imehi pañcahi dhammehi samannāgato Tathāgato.....dhammen' eva anuttaraṁ dhamma-cakkaṃ pavatteti.
P. 148 (1) M. 13 Dukkhakkhandha; 同本 中 99. 苦陰經 (民六 20f).

P. 150 (1) A. VI. 52; 同本 中 149 何欲 (昃六 82); 增 (昃二 49).

P. 150 (2) A. VIII. 27; 增 (昃二 52), 雜 (辰三 54).

P. 150 (3) A. IV. 47.

Nabhā ca dūre paṭhavī ca dūre
pāraṃ samuddassa tadāhu dūre.
Yato ca verocano abbhudeti
pabhaṅkaro yattha ca attham eti;
Tato have dūrataraṃ vadanti
satañ ca dhammaṃ asatañ ca dhammaṃ.

P. 151 (1) Dh. vv. 60-61.

Dīghā jāgataro rattī, dīghaṃ santassa yojanaṃ,
dīgho bālānaṃ saṃsāro saddhammaṃ avijānataṃ.
Carañ ce nâdhigaccheyya seyyaṃ sadisaṃ attano,
ekacaryaṃ daḷham karyā n'atthi bāle sahāyatā.

P. 152 (1) A. VIII. 10; 同本 中 122. 膽波經 (昃六 42a).

P. 153 (1) S. 12. 68; 同本 雜 (辰二 80a).

P. 154 (1) S. 35. 206; 同本 雜 (辰四 48b), 增 (昃二 57).

P. 155 (1) S. 23. 2; 同本 雜 (辰二 32a).

P. 155 (2) A. VII. 68. Aggi; 同本 中 5. 木積喩經 (昃五 7)
增 (昃三 29). 下 p. 204 (4) に同し。

P. 156 (1) S. 35. 200; 同本 雜 (辰四 50), 增 (昃三 10).

P. 156 (2) S. 22. 96; 同本 雜 (辰二 55), 中 61. 牛糞喩經 (昃五 65a).

P. 157 (1) S. 56. 51; 同本 雜 (辰二 92b).

P. 157 (2) S. 16. 3; 同本 雜 (辰四 37b), 別雜 (辰五 37b).

P. 157 (3) M. 29-30. Sāropama.

P. 158 (1) M. 39. Mahā-suppurisa. 同文 中 98 念處經 (昃六 19a).

P. 158 (2) M. 99. Subha; 同本 中 152 鸚鵡經 (昃六 89a).

P. 159 (1) A. IX. 11; 同本 中 24. 師子吼 (昃五 30b).

P. 159 (2) S. 41. 5; 同本 雜 (辰三 19b).

Nelaṅgo seta-pacchādo ekāro vattati ratho.

P. 159 (3) 雜 (辰四 82a).

誰屈下而屈下　誰高擧而隨擧。
愛下則隨下　愛擧則隨擧。

P. 159 (4) S. 7. 22; 同本 雜 (辰四 44a), 別雜 (辰五 26).

Punappunam ceva vapanti bījaṃ,
punappunam vassati devarājā,
punappunam khettan kasanti kassakā,
punappunam aññam upet raṭṭhaṃ.
Punappunam yācakā yacanti,
punappunam dānapatī dadanti,
punappunam dānapatī daditvā
punappunam saggam upeti ṭhānaṃ.

P. 160 (1) Sn. 2. Dhaniya, vv. 22-29.

28. Dhaniyo:

Khīlā nikkhātā asampavedī
dāmā muñja-mayā navā susaṇṭhanā
na hi sakkhinti dhenupā pi chettum

29. Bhagavā:

Usabhor iva chetvā bandhanāni,
nāgo pūtilataṃ va dālyitvā
nâhaṃ puna upessaṃ gabhaseyyaṃ.

第 六 篇

P. 165 (1) S. 56. 20; 同本 雜 (辰二 90a).

Imāni cattāri tathāni avithāni anaññathāni.

我所說四聖諦, 如如不離如, 不異如, 眞實審諦, 不顚倒。

D. 34. Dasuttara; 同本 長 10. 十上 (昃九 47b).

Dhammā bhūtā tacchā atthā avitathā sammā Tathāgatena abhisambuddhā.

法如實無虛, 如來知已, 平等說法。

P. 165 (2) p. 164 を見よ。

P. 166 (1) M. 119. Kāyagatā-sati; 同本 中 81. 念身經 (昃五 113).
M. 10. Satipaṭṭhāna; 同本 中 90. 念處經 (昃六 25) &c.

P. 166 (2) A. IV. 119-121.

P. 166 (3) p. 164 を見よ。

P. 166 (4) S. 15. Anamata; 同本 雜 (辰三 97-100), 別雜 (辰五 108).

P. 167 (1) Dh. v. 128; 同本 法句經 (藏六 94b, 99a) 別雜 (辰五 18a), 增 (昃二 11b).

Na antalikkhe, na samudda-majjhe, 非空非海中
na pabbatānaṃ vivaraṃ pavissa, 非入石山間
na vijjatī so jagati-ppadeso, 無有地方處
yatthaṭṭhito na-ppasahetha maccu. 脫之不受死

P. 168. (1) M. 12. Mahā-sīhanāda; 增 (昃三 24), 雜 (辰三 52-53).
M. 50. Māratajjaniya; 中 131. 降魔經 (昃六 49).
M. 129. Bālapaṇḍita; 中 199. 痴慧經 (昃七 61).

P. 168 (2) A. III. 52; 同本 別雜 (辰五 28b).

P. 168 (3) M. 14. Dukkhakkhandha (vol. I. p. 85);
同本 中 100 苦陰經 (昃六 22a).

Pañc'ime kāma-guṇā,.....iṭṭhā, kantā, manāpā, kāmūpasaṃhitā, rajanīyā;.....ime pañca-kāmaguṇe paṭicca uppajjati sukhaṃ somanassaṃ, ayaṃ kāmānaṃ assādo;.....ayaṃ kāmānaṃ ādīnavo sandiṭṭhiko dukkhakkhandho, kāmā-hetu, kāma-nidānam, kāmâdhikaraṇam, kāmānam eva hetu.

有五欲功德, 可愛, 可念, 歡喜, 欲相應, 而使人樂, ... 如是現法苦陰, 因欲, 緣欲, 以欲爲本。

P. 171 (1) It. I-II; 同本 本事經 (辰六 21-36).

P. 172 (1) M. 46. Dhammasamādāna; 同本 中 175 受法經 (昃七 23).
Yebhuyyena sattā evaṃkāmā evaṃchandā &c.
此世間如此欲 如此望 &c.

P. 172 (2) S. 36. 3; 同本 雜 (辰二 97a).

P. 172 (3) A. III 33; A. III. 69; It. 50 &c.

P. 173 (1) Maitrāyaṇa-Upa. 3. 5.

Saṃmoho, bhayaṃ, viṣādo, *nidrā*, tandrī, vraṇo, *jarā, śokaḥ*, kṣut-pipāsā, kārpaṇyaṃ, *krodho, nāstikyam ajñānaṃ, mātsaryaṃ* vaikāruṇyaṃ, mūḍhatvaṃ, nirvrīḍatvam, nikṛtatvam uddhatvam asamatvam iti *tāmasâ*nvitas;

tṛṣṇā, sneho, rāgo, lobho, hiṃsārati-*dṛṣṭi*-vyāpṛtatvam *īrṣyā* kāmam avasthitatvaṃ pañcalatvaṃ jihīrṣa-arthopārjanaṃ, mitrânugrahaṇaṃ parigraraha-avalambo'niṣṭeṣv indriyârtheṣu *dviṣṭir* iṣṭeṣv abhiṣaṅga iti *rājasâ*nvitaiḥ paripūrṇa etair abhibhūta ity-ayaṃ bhūta-ātmā;
tasmān nāma-rūpāṇy āpnoti.

P. 174 (1) Dhamma-saṅgāni, 1097, 1058, 1060. 雜 (辰二 48a).

P. 176 (1) Dhamma-saṅgāni, 1061.

P. 176 (2) S. 45. 180; S. 46. 3. &c.

P. 177 (1) D. vol. I p. 156.

P. 177 (2) A. IV. 10; 同本 增 (昃二 13b).

P. 177 (3) M. 11. Sīhanāda; 同本 中 103. 師子吼經 (昃六 256).
雜 (辰三 1b 十三行以下).

P. 177 (4) A. IV. 44.

P. 180 (1) M. 7. Vatthūpama; 同本 中 93. 水淨梵經 (昃六 12).
Ch. Āg. p. 48 を見よ。

P. 181 (1) S. 36. 22; 同本 雜 (辰二 101a.
M. 137. Saḷāyatana-vibhaṅga;
同本 中 163 分別六處經 (昃七 7).

P. 186 (1) M. 5. Anaṅgana; 同本 中 87. 穢品經 (昃六 5f).

P. 187 (1) S. 3. 3. 1; 同本 雜 (辰四 41b), 別雜 (辰五 23).
A. IV. 85; 同本 增 (昃一 73).

P. 187 (2) S. 7. 1. 9; 同本 雜 (辰四 54b), 別雜 (辰五 33a).

Mā jatim pucha, caraṇañ-ca pucha, 汝莫問所生 但當問所行
kaṭṭhá have jāyati jātavedo; 刻木爲鑽燧 亦能生於火
nīcākulīno pi muni dhitimā, 下賤種姓中 生堅固牟尼
ājānīyo hoti hirī-nisedho, 智慧有慚愧
saccena danto, damasā upeto, 精進善調伏
vedantagū vūsita-brahmacariyo, 究竟大明際 清淨修梵行

yaññapanīto tam upavhayetha,
kālena so jānati dakkhiṇeyyo ti. 而今正是時 應奉施餘食。

P. 188 (1) Sn. 67; 同本雜 (辰二 23b), 別雜 (辰五 86b).

P. 189 (1) M. 51. (vol. I. p. 341 f).
M. 60. (,, p. 412 f).
M. 94. (還 vol. II. p. 560 f).
} 漢譯缺之。

P. 189 (2) Dh. Chap. 26; 同本法句經三十六品 (藏六 105).
尙四姓の平等につきては下の諸說法あり—
D. 27. Aggaññа; 同本 長 5. 小緣經 (民九 31f), 中 154. 婆羅婆堂經 (民六 92 f).
M. 93. Assalāyana; 同本 中 151. 阿攝想經 (民六 84 f).
M. 96. Esukāri; 同本 中 150. 鬱瘦歌羅經 (民六 82 f).
M. 84. Madhura; 同本 雜 (辰三 13 f).
M. 90. Kaṇṇakatthala; 同本 中 212. 一切智經 (民七 88).

P. 195 (1) S. 4. 3. 4; 同本 雜 (辰二 25b), 別雜 (辰五 10).

P. 196 (1) S. 4. 3. 5; 同上 (辰二 26; 辰五 10).

P. 196 (2) Sn. 28. Padhāna.

P. 196 (3) Lalita-v. (ed. Lefmann, pp. 261-263);
同本 方廣莊嚴經 (宙四 55).

P. 196 (4) Mahāvastu, vol. II. pp. 238-240;
同本 本行集經 (辰八 17-18).

P. 197 (1) Vin. 1. I. 11. 2; 現法 p. 53 を見よ。

P. 197 (2) S. 4. 2. 1; 同本 雜 (辰四 24 b), 別雜 (辰五 9 a).

P. 197 (3) S. 4. 1. 6; 同本 同上。

P. 197 (4) S. 4. 2. 10; 同本 雜 (辰四 27-28).

P. 197 (5) D. 16. Mahāparinibbāna, III. 7 f;
現法 pp. 140-141を見よ。

P. 199 (1) S. 5.5; 同本 雜 (辰四 50)), 別雜 (辰五 73b).

P. 199 (2) M. 50. Māratajjaniya; 同本 中 131. 降魔經 (民六 49 f).

P. 200 (1) S. 5. 1; 同本 雜 (辰四 59 b) 別雜 (辰五 73 a).

P. 200 (2) S. 5. 3; 同本 雜 (辰四 60 a), 別雜 (辰五 73 a).

P. 200 (3) S. 4. 1. 10; 同本 雜 (辰四 24 a), 別雜 (辰五 8 b).
S. 5. 8-10; 同本 雜 (辰四 62, 61 a, 60 b), 別雜 (辰五 75 a, 74 a).

P. 201 (1) S. 4. 2. 2, 4, 6, & 7;
同本 雜 (辰四 28 b, 27b, 29a), 別雜 (辰五 29 a).

P. 201 (2) S. 4. 3. 3; 同本雜 (辰四 25), 別雜 (辰五 9b).
以上 p. 195 以下の分につきては; Windisch, Buddha und Māra 參照。

P. 202 (1) S. 6. 2. 4. Aruṇavatī. この傳の異本は立世阿毘曇 (秋一 2) にあり。
その偈は增阿 (民二 44 a, 46 a) 等にあり。

Ārabbhatha, nikkhamatha,	常當念勤加
yuñjatha Buddha-sāsane;	修行於佛法
dhunātha maccuno senaṃ,	降伏魔衆怨
naḷāgāraṃ va kuñjaro.	如鈎調於象
Yo imasmiṃ dhamma-vinaye	若能於此法
appamatto vihassati,	能行不放逸
pahāya jāti-saṃsāraṃ	當盡苦原際
dukkhass' antaṃ karissati.	無復有衆惱

P. 203 (1) 增 (民一 51 b).

P. 203 (2) 同 (民二 37b).

P. 203 (3) 同 (民二 37ab).

P. 204 (1) 同 (民三 19a.)
參照 Ādīnavā mātugāme:
A. V. 229-230.

P. 204 (2) Vin. 2. 10. 1; 同本 A. VIII. 51;
中 116. 瞿曇彌經 (民六 37 f).

P. 204 (3) A. VIII. 17.

P. 204 (4) A. VIII. 68, 先 p. 155 (2) に同し。

P. 204 (5) A. V. 75-76; 同本 增 (民二 27-28).

P. 206 (1) 四分律 (張一 10-12).

P. 207 (1) **S.** 35. 127; 同本 雜 (辰四 47 a).

P. 208 (1) **A.** VII. 59; 同本 增 (昃三 60), 阿那邠化七子經 (昃四34).

Satta purisassa bhariyā: 七 婦

vadhaka-samā 屠者に似たる,
corī-samā 似賊,
ayya-samā 暴主に似たる,
mātu-samā 似母,
bhagini-samā 姉妹に似たる,
sakhī-samā 友に似たる,
dāsī-samā 似婢。

P. 208 (2) **D.** 31. Siṅgālaka; 同本 長 16 善生經 (昃九 59 a).

P. 208 (3) **A.** IV. 53-54.

P. 208 (4) **S.** 1. 6. 4; 同本 雜 (辰四 5 a), 別雜 (辰五 77).

P. 209 (1) **J. R. A. S.** 1893, p. 517 f: Bode, Women Leaders of the Buddhist Reformation.

P. 211 (1) **M.** 122. Suññata (還 vol. III. p. 228);
同本 中 191. 大空 (昃七 45 a).
D. 25. Udumbarika; 同本 中 林經 (昃六 29 a).
S. 1. 1. 10; 同本 雜 (辰四 2a), 別雜 (辰五 47b).

P. 212 (1) **Th. 1.** 527-529.

Aṅgārino dāni dumā bhadante,
phalesino chadanaṃ vippahāya,
te accimanto va pabhāsayanti,
samayo, mahāvīra, bhagī rasānam.
Dumāni phullāni manoramāni
samantato sabbadisā pavanti
pattaṃ pahāya phalam āsasānā;
kālo ito pakkamanāya, vīrā.
N'evâtisītaṃ na panâtiuṇhaṃ,
sukhā utu adhaniyā bhadante,.....

P. 213 (1) **Th. 1.** 537-541, 544-515.

P. 214 (1) **Th. 1.** 1058, 1059, 1063.-1065, 1068-1071.

P. 215 (1) 先 p. 158 (1) に同じ。

P. 2.6 (1) **M.** 121. Suññata (還 vol. III. p. 212);
同本 中 190. 小空經 (昃七 42 b—43 a).

P. 217 (1) **S.** 7. 2. 7-8; 同本 雜 (辰四 54 a), 別雜 (辰五 32 a) &c.

Addasā.....Bhagavantaṃ aññatarasmiṃ sāla-rukka-mūle nisinnaṃ pallaṅkaṃ ābhujitvā ujuṃ kāyaṃ paṇidhāya parimukhaṃ satiṃ upaṭṭhapetvā.

P. 217 (2) 中 20. 波羅牢經 (昃五 24a) &c.

P. 217 (3) 本行集經七卷 (辰七 24) 等。

P. 218 (1) **M.** 26. Ariyap. (vol. I. p. 166—167);
同本 中 204 羅摩經 (昃七 74b 十五行以下)

Ahaṃ kiṃ-kusala-gavesī, anuttaraṃ santi-vara-padaṃ pariyesamāno Magadhesu anupubbena cārikaṃ caramāno yena Uruvelā senānigamo tad-avasariṃ. Tatth' addasaṃ ramaṇīyaṃ bhūmi-bhāgaṃ pāsādikañ ca vanasaṇḍaṃ, nadiñ ca sandantiṃ setakaṃ sūpatitthaṃ ramaṇīyaṃ, samantā ca gocaragāmaṃ. Tassa mahyaṃ etad ahosi: Ramaṇīyo vata bho bhūmi-bhago pāsādiko ca vana-saṇḍo, nadī ca sandati setakā sūpatitthā ramaṇīyā, samantā ca gocaragāmo; ahaṃ vat' idaṃ kulaputtassa padhānatthikassa padhānāyâti. So kho ahaṃ tatth' eva nisīdiṃ: alaṃ idaṃ padhānāyâti.

我今.....便求無病無上安隱涅槃.....已, 往象頭山南鬱粹羅梵志村名曰斯那, 於彼中地至可愛樂, 山林鬱茂, 尼連禪河清流盈岸, 我見彼已便作是念, 此地可至愛樂, 山林鬱茂, 尼連禪河清盈岸, 若族姓子欲有學者可於中學, 我亦當學, 我今寧可於此中學, 即便持草往詣覺樹, 到已布下尼師壇, 結跏趺坐, 要不解坐至得漏盡。

P. 219 (1) **A.** III. 79; 同本 雜 (辰四 19a), 別雜 (辰五 4).
Ch. Ag. p. 24 (93) を見よ。

Na puppha-gandho paṭi-vātam eti,
na candanaṃ taggara-mallikā vā;
satañ ca gandho paṭi-vātam eti,
sabbā disā sappurio pavāti ti,

非根莖華香　能逆風而薫　唯有善士女
持戒清淨香　逆順滿諸方　無不普聞知
多迦羅栴檀　優鉢羅末利　如是比諸香
戒香最爲上　……

P. 219 (2) S. 3. 2. 9; 同本 雜 (辰四 60 a), 別雜 (辰五 20a).
M. 40. Assapura; 同本 中 183. 馬邑經 (昃七 34a).

P. 219 (3) S. 22. 95; 同本 雜 (辰二 56).
Ch. Ag. p. 24 (92) 幷に下 p. 224 を見よ。

P. 220 (1) S. 35. 197. Āsivisa; 同本 雜 (辰四 48), 增 (昃二 13).

P. 220 (2) S. 47. 7; 同本 雜 (辰三 41b).
M. 56 (vol. II. 73); 同本 中 133. 優婆離經 (昃六 58 b).
下 p. 346 (1) に同じ。

P. 220 (3) A. III. 81; 同本 雜 (辰三 73b), 本事經 (辰六 45b).

P. 220 (4) 雜阿には馬の譬喩を集めたり。 Ch. Ag. p. 134.

P. 220 (5) S. 1. 2. 7; 同本 雜 (辰三 30), 別雜 (辰五 59 a).
同偈 S. 35. 119; 同本 雜 (辰四 47 b).

Kummo va aṅgāni sake kapāle,　如龜善方便　以殼自藏六
samodahaṃ bhikkhu mano-vitakke,　比丘習禪思　善攝諸覺想
anissito aññam aheṭhayāno　其心無所依　他莫能恐怖
parinibbuto na upavadeyya kañci.　是則自隱密　無能誹謗者

P 220. (6) A. IV. 33. Sīha &c.

Sīho migarājā sāyaṇha-samayaṃ āsayā nikkhamati āsayā nikkhamitvā vijambhati, vijambhitvā samantā catuddisā anuviloketi, samantā catuddisā anuviloketvā tikkhattum sīha-nādaṃ nadati, tikkhattuṃ sīha-nādaṃ naditvā gocarāya pakkamati.

P. 220 (7) M. 27-28. Hatthipadopama;
同本 中 30 & 146 象跡喩經 (昃五 39f, & 昃六 78f).

P. 220 (8) Windisch, Buddha's Geburt を見よ。

P. 222 (1) A. VI. 43. Nāga; 同本 中 118 龍象經 (昃六 40 a),
毘婆婆論 (收三 76, 秋九 45b). 現法 p. 102 を見よ。

Manussabhūtaṃ Sambuddhaṃ　正覺生人間
attadantaṃ samāhitaṃ　自御得正定
iriyamānaṃ brahma-pathe　修習行梵跡
cittassūpasame rataṃ,　息意能自樂
yaṃ manussā namassanti,　人之所敬重
sabba-dhammānapāragum,　超越一切法
devā pi naṃ namassanti:　亦爲天所敬
iti me arahato sutaṃ.　無著至眞人
Sabba-saññojanâtītaṃ,　超度一切結
vanā nibbānam āgataṃ,　於林離林去
kāmehi nekkhamma-rataṃ　捨欲樂無欲
muttaṃ selā va kañcanaṃ.　如石出眞金
Sabbe accarucī nāgo　一切龍中高
Himavā 'ñne siluccaye　如衆山有嶽
sabbesaṃ nāganāmānaṃ　一切龍中龍
saccanāmo anuttaro.　眞諦無上龍
Nāgaṃ vo kittayissāmi,　稱說名大龍
na hi āguṃ karoti so:　而無所傷害
soraccaṃ avihiṃsā ca　溫潤無有害
pādā nāgassa te duve,　此二是龍足
tapo ca brahmacariyaṃ　苦行及梵行
caraṇā nāgassa tyāpare,　是謂龍所行
saddhā-hattho mahānāgo,　大龍信爲手
upekkhā-setadantavā　二功德爲牙
sati gīvā, siro paññā,　念項知慧頭
vimaṃsā dhamma-cintanā,　思惟分別法

dhamma-kucchi samātapo, 受持諸法腹
viveko tassa vāladhi. 樂遠離雙臂
So jhāyī assāsarato 住善息出入
ajjhattaṃ susamāhito, 內心至善定
gacchaṃ samāhito nāgo, 龍行止俱定
ṭhito nāgo samāhito,
sayaṃ samāhito nāgo, 坐定臥亦定
nisinno pi samāhito,
sabbattha saṃvuto nāgo, 龍一切時定
esā nāgassa sampadā. 是謂龍常法
Bhuñjati anavajjāni, 無穢家受食
sāvajjāni na bhuñjati, 有穢則不受
ghāsaṃ acchādanaṃ laddhā, 所得供養者
sannidhiṃ parivajjayaṃ, 爲他慈愍受
saññojanaṃ anuṃ ṭhūlaṃ 斷除大小結
sabbaṃ chetvāna bandhanaṃ, 解脫一切縛
yena yen'eva gacchati, 隨彼所遊行
anapekkho 'va gacchati. 心無有繫着
Yathā pi udake jātaṃ 猶如白蓮花
puṇḍarīkaṃ pavaḍḍhati, 水生水長養
na upalippati toyena 泥水不能著
sucigandhaṃ monaraṃaṃ, 妙香愛樂色
tath'eva loke sujāto 如是最上覺
Buddho loke virajjati, 世生行世間
na upalippati lokena, 不爲欲所染
toyena padumam yathā. 如華水不著
Mahāgini pajjalito 猶如然火熾
anāhārûpasammati 不益薪則止
saṅkhāresûpantesu 無薪火不傳
nibbuto ti pavuccati. 此火爲之滅
Atth' assāyaṃ viññāpanī 慧者說此喻

upamā viññūhi desitā, 欲令解其義
viññissanti mahānāgā 是龍之所知
nāgaṃ nāgena desitaṃ 龍中龍所說
Vīta-rāgo vīta-doso 遠離淫欲恚
vīta-moho anāsavo, 斷癡得無漏
sarīraṃ vijahaṃ nāgo 龍捨離其身
parinibbāti 'nāvaso. 此龍謂之滅

P. 228 (1) M. 9. Sammāditthi ; 同本 增 (戾二 41b).

P. 233 (1) M. 9. (同上, vol. I. p. 53).

Vedanā, saññā, cetanā, phasso, manasikāro, idaṃ vuccati nāmaṃ ; cattāri ca mahābhūtāni, catunnañ ca mahābhūtānaṃ upādāya rūpaṃ, idaṃ vuccati rūpaṃ.

所謂名者,痛,想,念,更樂,思惟,是爲名。彼云何爲色,所謂四大,身及四大,身所造色,是謂名爲色。

P. 236 (1) S. 22. 79 ; 同本 雜 (辰二 9b).

P. 238 (1) S. 22. 56 Upādānaṃ parivaṭṭaṃ, 57. Sattaṭṭhāna ; 同本雜 (辰二8b). Ch. Ag. p. 34. No 27 を見よ。

P. 239 (1) S. 12. 38-40 ; 同本 雜 (辰二 81).

Yañ ca ceteti yañ ca pakappeti yañ ca anuseti, ārammaṇaṃ etaṃ hoti viññānassa ṭhitiyā, ārammaṇe sati patiṭṭhā viññānassa hoti, tasmim patiṭṭhite viññāṇe virūḷhe, āyatiṃ punabbhavâbhinibbatti hoti.

若思量若妄想生, 彼使攀緣識住, 有攀緣識住故有未來世。.... 參照。 It. 21 ; 同本 本事經 (辰六 21b).

S. 240 (1) S. 22. 100 ; 同本 雜 (辰二 56-57).

Tam pi kho caraṇaṃ nāma cittaṃ citten' eva cintitaṃ, tena pi kho caraṇena cittena cittaññeva cittataraṃ ;..... cittasaṅkilesā sattā saṅkilissanti, cittavodānā sattā visujjhanti. ...Seyyathāpi rajako vā citta-kārako vā nāsati rajanāya vā lākhāya vā haliddiyā vā nīliyā vā mañjeṭṭhiyā vā suparimaṭṭhe phalake vā bhittiyā vā dussapaṭṭe vā itthi-rūpaṃ vā parisa-rūpaṃ vā abhinimmineyya sabbaṅga-

paccangiṃ; evam eva assutavā puthujjano rūpaññeva abhinibbattento abhinibbatteti.....

如嗟蘭那鳥，種種雜色，我說彼心種種雜……心惱故衆生惱,心淨故衆生淨。譬如畫師畫師弟子善治素地，具衆彩色,隨意圖畫種種像類，如是凡愚衆生不如實知色 …… 故樂著於色，樂著於色故復生未來諸色。

P. 240 (2) S. 41. 6; 同本 雜 (辰三 20b).

Atha khvassa pubbe va tathā cittaṃ bhāvitaṃ hoti, yaṃ taṃ tathattāya upaneti.....Saññāvedayita-nirodha-samāpattiyā vuṭṭhahantassa bhikkhuno citta-saṅkhāro paṭhamaṃ uppajjati, tato kāya-saṅkhāro, tato vacī-saṅkhāro ..... tassa viveka-ninnaṃ cittaṃ hoti, viveka-poṇaṃ, viveka-pabbhāraṃ

如其先心而起……意行先起，次身行，後口行，……入滅正受者順趣於離，流注於離，淩輸於離，順趣於出，流注於出，淩輸於出……涅槃。

P. 240 (3) Dahlmann, Sāṅkyha-philosophie, p. 97 を見よ。

P. 242 (1) S. 41. 7; 同本 雜 (辰三 19b-20a).

參照。 S. 22. 80, 同本 雜 (辰二 58b).

P. 242 (2) 同上。參照 S. 52. 8; 同本 雜 (辰三 13a).

P. 243 (1) 同上。

Atha khvassa pubbe va tathā cittaṃ bhāvitaṃ hoti, yaṃ taṃ tathattāya upaneti.

參照。 A. IV. 186. (vol. II. p. 177).

Cittena kho loko niyyati, cittena parikissati, cittassa uppannassa vasaṃ gacchati.

P. 244 (1) Dahlman, 同上 p. 96 を見よ。

P. 244 (2) 下 p. 259 (1) 及 p. 32 を見よ。

P. 244 (3) 下 p. 319 (1) を見よ。

P. 247 (1) S. 14. 6-7; 同本 雜 (辰二 94).

P. 247 (2) S. 14. 12-24; 同本 雜 (辰二 94a). Ch. Ag. p. 22 (71)。

P. 248 (1) S. 2. 3. 2; 同本 雜 (辰四 80b).

P. 251 (1) S. 3. 3. 2; 同本 雜 (辰四 67b). 別雜 (辰五 18b).

P. 251 (2) (今その箇處を發見し得ず,後日の追補に讓る)。

P. 252 (1) 先 p. 119 (1) を見よ。

P. 255 (1) S. 12. 60; 同本 雜 (辰二 67a).

P. 257 (1) S. 22. 57; 同本 雜 (辰二 9a 四行).

P. 257 (2) S. 22. 55; 同本 雜 (辰二 13b-14).

P. 259 (1) S. 12. 15; 同本 雜 (辰二 69b). 先 p. 32 を見よ。

P. 259 (2) S. 12. 20; 同本 雜 (辰二 68b).

Jāti-paccayā jarā-maraṇaṃ, uppādā vā Tathāgatānaṃ anuppādā vā Tathāgatānaṃ ṭhitā vā sā dhātu dhammaṭṭhitatā dhamma-niyāmatā idapaccayatā. Taṃ Tathāgato abhisambujjhati, abhisameti, abhisambujjhitvā abhisametvā ācikkhati, deseti, paññāpeti, paṭṭhapeti, vivarati, vibhajati, uttānīkaroti, passatāti.

漢譯は現法 p. 241 にあり。下 p. 319 (1) を見よ。

第 八 篇

P. 263 (1) S. 22. 1; 同本 雜 (辰二 27).

P. 265 (1) S. 22. 89; 同本 雜 (辰二 24).

P. 265 (2) S. 22. 88; 同本 雜 (辰四 10).

P. 265 (3) 雜阿含はこの教訓を一處に集む (辰四 96-77, 9-12).
Ch. Ag. p. 114 を見よ。

P. 267 (1) Ud. III. 5.

Sati kāyagatā upaṭṭhitā, chasu phassâyatanesu saṃvuto,
sasataṃ bhikkhu samāhito, jaññā nibbānâttano.

P. 267 (2) S. 36. 5; 同本 雜 (辰二 97a).

P. 267 (3) S. 36. 6; 同本 雜 (辰二 97b, 辰四 11a).

P. 268 (1) Dahlmann, Nirvāṇa を見よ。

P. 268 (2) S. 35. 187; 同本雜 (辰二44b.)

yo imaṃ samuddaṃ sagāhaṃ
sarkkhasaṃ 大海巨濤波 惡蟲羅刹惡
saūmibhayaṃ duttaraṃ accatari, 難度而能度 集離永無餘

so vedagū vusita-brahmacariyo, 能斷一切苦 不復受餘有
lokantagū pāragato ti vuccati. 永之般涅槃 不復還放逸

P. 269 (1) S. 2. 3. 6; A. IV. 45; 同本 雜 (辰四 89b), 別雜 (辰五 96b), 增 (民三 80).

Gamanena na pattabbo 未曾遠遠行
lokass'anto kudācanaṃ, 而得世界邊
na ca appatvā lokantaṃ 無得世界邊
dukkhā atthi pamocanaṃ; 終不盡苦邊
tasmā have lokavidū, sumedho, 以是故牟尼 能知世界邊
lokantagū, vusita-brahmacariyo, 善解世界邊 諸梵行已立
lokassa antaṃ samitāvī ñatvā 於彼世界邊 平等覺知者
nāsiṃsati lokam imaṃ paraṅ-ca. 是名賢聖行 度世間彼岸。

P. 270 (1) 上 p. 83 (1) に同じ。

P. 271 (1) S. 4. 3. 5; 同本 雜 (辰四 26b), 別雜 (辰五 11).

P. 271 (2) S. 35. 95; 同本 雜 (辰二 73).

P. 272 (1) 先 p. 32 を見よ。

P. 273 (1) It. 82; 同本 本事經 (辰六 51b 十一行)。

Puna ca paraṃ yasmiṃ samaye ariyasāvako āsavānaṃ khayā anāsavaṃ cetovimuttiṃ paññāvimuttiṃ diṭṭh'eva dhamme sayaṃ abhiññā sacchikatvā upasampajja viharati,.....

我弟子諸漏永盡，證眞無漏，心善解脫，慧善解脫，於現法中自證通慧，具足 安住，能自了知，我生已盡，梵行已立，所作已辦，不受後有。

この句は聖者の證悟を語る時に常に用ふ，その出處の二三を示さん。

S. 22. 1-6; 同本 雜 (辰二 10b). S. 22. 39; 同 雜 (辰二 5a).
S. 22. 57; 同 (辰二 9a). S. 21. 4; 同 雜 (辰四 18a), &c.

P. 275 (1) It. 44; 同本 本事經 (辰六 35a).

Duve imā cakkhumatā pakāsitā 此二涅槃界
nibbāna-dhātū anissitena tādinā: 最上無等倫
ekā hi dhātu idha diṭṭha-dhammikā 謂現法當來

sa-upādisesā bhava-netti-saṅkhayā, 名有餘涅槃
anupādisesā pana samparāyikā 名無餘涅槃
yamhi nirujjhanti bhavāni sabbaso. 諸所受皆滅
Ye etad aññāya padaṃ asaṅkhataṃ
vimutta-cittā bhava-netti-saṅkhayā 寂靜永清凉
te dhamma-sārâdhigamā khaye ratā
pathaṃsu te sabbabhavāni tādino ti. 衆戲論皆息

(この韻文漢譯は十分合せず。本書本文の印刷には誤て散文の如く行を分たず印刷したり。「一は」「他は」「この無爲」「法の心髓」にて分ちて五行に印刷すべかりしなり)。

P. 275 (2) M. 70. Kīṭāgiri; 同本 中 195. 阿濕貝經 (民七 54-55).

P. 278 (1) S. 55. 24; 同本 雜 (辰三 96b).
S. 55. 52, &c.

P. 278 (2) It. 34; 同本 本事經 (辰六 35b 十七行).

P. 278 (3) A. VI. 10; 同本 雜 (辰三 95).

P. 278 (4) S. 45. 3; 48. 24; 48. 15; 48. 66; 51. 26 &c.

P. 281 (1) A. VII. 52. Purisa-gati; 同本 中 6. 善人往 (民五 9b).

Idha bhikkhu evaṃ paṭipanno hoti: no c'assa, no ca me siyā, na bhavissati, na me bhavissati, yad atthi yaṃ bhūtaṃ, taṃ pajahāmî ti, upekhaṃ paṭilabhati. So bhave na rajjati, sambhave na rajjati, atthuttariṃ padaṃ santaṃ sammapaññāya passati. Taṅ ca khvassa padaṃ sabbena sabbaṃ sacchikataṃ hoti, tassa sabbena sabbaṃ mānânusayo pahīno hoti, sabbena sabbaṃ bhava-rāgânusayo pahīno hoti, sabbena sabbaṃ avijjânusayo pahīno hoti. So āsavānaṃ khayā.....sacchikatvā upasampajja viharati. Idaṃ vuccati anupādā parinibbānaṃ.

比丘行當如是，我者無我亦無我所，當來無我亦無我所，已有便斷，已斷得捨，有樂不染，合會不着，行如是者無上息迹慧之所見，而已得證，我說彼比丘不至東方，不至西方，南方北方四維上下，便於現法中，息迹滅度 (是無餘涅槃)。

P. 282 (1) S. 22. 87; 同本 雜 (辰四 76-77), 增 (民一 78-79).

P. 283 (1) Ud. VIII 10; 同本 雜 (辰四 20b).

Ayoghanahatass'eva	譬如燒鐵丸
jalato jātavedassa	其焰洞燃燃
anupubbûpasantassa	勢勢漸息滅
yathā na ñāyate gati;	莫知其所歸
Evaṃ sammāvimuttānaṃ	如是等解脫
kāma-bandh-ogha-tārinaṃ	度煩惱淤泥
	諸流永已斷
paññāpetum gati natthi	莫知其所之
pattānaṃ acalaṃ sukhan'ti.	逮得不動跡
	入無餘涅槃。

P. 283 (2) D. 15. Mahānidāna; 同本 中 97. 大因經 (民六 17b-18a).
Ch. Ag. p. 49. No 97 を見よ。參照 中 行禪經 (民七 25).

P. 284 (1) D. 16. Mahāparin. VI. 17-18; 同本 長 2 遊行經 (民九 22b).

Nāhu assāsapassāso	佛以無爲住
ṭhita-cittassa tādino;	不用出入息
anejo santim ārabbha	本由寂滅來
yaṃ kālaṃ akāri munī.	露曜於是沒
Asallīnena cittena	不以懈怠心
vedanaṃ ajjhavāsayi,	約己修上慧
pajjotass'eva nibbānaṃ	無着無所染
vimokkho cetaso ahū'ti.	離愛無上尊

同文。S. 6. 2. 5; 同本 雜 (辰四 59a), 別雜 (辰五 37b). S. の文は第四句を

cakkhumā parinibbuto 世間眼涅槃。

P. 285 (1) S. 12. 68; 同本 雜 (辰二 80a).

P. 286 (1) It. 51, 73.

Kāyena amataṃ dhātum phassayitvā nirūpadhiṃ,
upadhi-ppaṭinissaggaṃ sacchikatvā anāsavo,

deseti Sammāsambuddho asokam virajaṃ padaṃ.

P. 286 (2) M. 70. 先 p. 51 (1) に同じ。

P. 288 (1) 現法 pp. 66-75 を見よ。

P. 289 (1) 中 81. 念身經 (民五 114. 十一行f).

P. 290 (1) A. III. 58; 同本 雜 (辰三 83b).

漢譯は第一偈を缺く。現法 p. 73. 最後の行にも之を追補す。

Tīhi vijjāhi sampannam	
asammūḷha-vihārinaṃ	
Buddhaṃ antima-sarīraṃ	
taṃ namassanti Gotamaṃ.	
Pubbenivāsaṃ yo vedi	知一切宿命
saggāpāyañ ca passati	已生天惡趣
atho jāti-kkhayaṃ patto	得斷生漏盡
abhiññâvosito muni.	是爲牟尼通
Etāhi tīhi vijjāhi	(悉知心解脫
tevijjo hoti brāhmaṇo	一切貪恚癡)
taṃ ahaṃ vadāmi tevijjaṃ	我說具三明
nâññaṃ lapitalāpanaṃ.	非言說所說。

P. 291 (1) 現法 p. 113 を見よ。

P. 294 (1) M. 106. Āneñjasappāya;
同本 中 75. 淨不動道經 (民五 102f).

P. 295 (1) S. 35. 134; 同本 雜 (辰二 43b).

Te blikkhū arahanto, khīṇâsavā, vusitavanto, kata-karaṇīyā, ohita-bhārā, anuppattasadatthā parikkhīṇa-bhava-saṃyojanā sammadaññā vimuttā.

比丘得阿羅漢，盡諸有漏，離諸重擔，逮得已利，盡諸有結，心正解脫。

その他この文甚多し。Mrs. Rhys Davids, Indices to the Saṃyutta-Nikāya, p. 12 (Arahatta, formula C) を見よ。

P. 296 (1) S. 22. 76; 同本 中 120 無常 (着の誤?) 經 (民六 41a).

Sukhino vata arahanto,	無着第一樂
taṇhā tesaṃ na vijjati,	斷欲無有愛
asmimāno samucchinno,	永捨離我慢
mohajālaṃ padālitaṃ;	裂壞無明網
Anejanto anuppattā,	彼得不移動
cittaṃ tesaṃ anāvilaṃ,	心中無穢濁
loke anupalittā te,	不染著世間
brahmabhūtā anāsavā.	梵行得無漏
Pañca-kkhandhe pariññāya,	了知於五陰
satta-saddhamma-gocarā,	境界七善法
pasaṃsiyā sappurisā,	妙稱上朋友
puttā Buddhassa orasā.	佛最上眞子
Satta-ratana-sampannā,	成就七覺寶
tīsu sikkhāsu sikkhitā,	具學三種學
anuvicaranti mahāvīrā,	大雄遊行處
pahīna-bhaya-bheravā.	離一切恐怖
Dasahaṅgehi sampannā,	成就十支道
mahānāgā samāhitā,	大龍極定心
ete kho seṭṭhā lokasmiṃ,	是世中第一
taṇhā tesaṃ na vijjati.	彼則無有愛
Asekha-ñāṇaṃ, uppannaṃ,	興起無學智
antimo yam samussayo,	得身最後邊
yo sāro brahmacariyassa	梵行第一具
tasmim aparapaccayā.	彼必不由他
Vidhāsu na vikampanti,	衆事不移動
vippamuttā puna-bbhavā,	解脫當來有
danta-bhūmim anuppattā,	〔斷生病老死
te loke vijitāvino.	所作辨滅漏〕
Uddham tiriyaṃ apācīnaṃ	上下及諸方
nandi teṣaṃ na vijjati;	彼無有喜樂

nandanti te sīhanādaṃ	能爲師子吼
buddhā te loke anuttarā.	世間無上覺。

P. 298 (1) **S.** 43. Asaṅkata; 同本 雜 (辰 83b).

Ch. Ag. p. 111 を見よ。

參照。 Kathāvatthu (還 p. 565).

Sabba-dhammānaṃ tatathā asaṅkhatā, nibbānaṃ, tāṇaṃ, lenaṃ, saraṇaṃ, parāyaṇaṃ, accutaṃ, amataṃ, nibbānaṃ, asaṅkhataṃ.

P. 298 (2) 下 p. 304 を見よ。

P. 298 (3) **Ud.** VIII. 3; 同本 **It.** 43.

No ce taṃ abhavissa ajātaṃ abhūtaṃ akataṃ asaṅkhataṃ, nayidh jātassa bhūtassa katassa saṅkhatassa nissaraṇaṃ paññāyetha?

P. 298 (4) **D.** 19. Mahāgovinda; 同本 長 3. 典尊經 (昃九 28).

P. 299 (1) **S.** 6. 1. 5; 同本 雜 (辰四 58), 別雜 (辰五 36).

P. 300 (1) **M.** 49. Brahma-nimantanika;

同本 中 78. 梵天請問經 (昃五 106).

P. 300 (2) **D.** 11. Kevaddha; 同本 長 24. 堅固經 (昃九 82f).

P. 304 (1) **S.** 2. 3. 6; 雜 (辰四 89), 別雜 (辰五 96). 先 p. 269 (1) に同じ。

P. 304 (2) **Ud.** VIII. 1.

Atthi tad-āyatanaṃ, yattha neva paṭhavī na āpo na tejo na vāyo na ākāsānañcâyatanaṃ, nâyaṃ loko na paraloko, na ubho candima-suriyā, tam aham neva āgatiṃ vadāmi, na gatiṃ na ṭhitiṃ na cutiṃ na uppattiṃ appatiṭṭhaṃ appavattaṃ anārammaṇam eva taṃ, esevanto dukkhassā'ti.

P. 304 (3) **S.** 1. 3. 7; 同本 雜 (辰三 30b), 別雜 (辰五 59b).

P. 305 (1) **D.** 11. Kevaddha (p. 223); 同本 長 24. 堅固經 (昃九 83a).

P. 305 (2) **Ud.** I. 10. この文は現法 p. 152 にあり。

以上五項共に現法 pp. 150-153 參照。

P. 306 (1) **S.** 22. Khandha-saṃyutta, **S.** 35. Saḷāyatana-s.

P. 306 (2) **S.** 20. 7; 同本 雜 (辰四 75b).

Te suttantā Tathāgata-bhāsitā gambhīrā, gambhīratthā, lokuttarā, suññata-paṭisaññuttā, (te dhamme uggahetabbaṃ pariyāpuṇitabbaṃ maññissanti).

如來所說修多羅，甚深明照，難見難覺，不可思量，微妙決定，明智所知。(彼則頓受周備受)。

P. 306 (3) **D.** 25; 中 104 (昃六 26a). **Ch. Ag.** p. 36. 8. を見よ。

P. 307 (1) **A.** I. 14. 2; 同本 增 (昃一 9b 十七行).

P. 307 (2) **Ud.** 6. 7.

Yassa vitakkā vidhūpitā ajjhattaṃ suvipakkhitā asesā taṃ saṃgam aticca arūpa-saññī catu-yogâtigato, na jātiṃ ceti.

P. 307 (3) **Th.** 1. 320-324.

P. 309 (1) Vajracchedikā (p. 43); 同本 金剛經 (月九 26, 29 &c.).

P. 313 (1) **A.** III. 39; 同本 中 117. 柔輭經 (昃六 39b); **A.** V. 57.

Vyādhi-dhammā jarā-dhammā	病法死法
atho maraṇa-dhammino,	及死亡法
yathā dhammā tathā sattā,	如法自有
jigucchanti puthujjanā.	凡夫見惡。

P. 313 (2) **D.** 34; 同文 長 (昃九 47b). 先 p. 165 (1) 末項に同じ。
尙諸法眞如につきては 先 p. 298 (1) 參照を見よ。

P. 314 (1) **Saddharmapuṇḍarīka II;** 同本 妙法蓮華經 (盈一 10b).

Tathāgata eva Tathāgatasya dharmaṃ deśayed yān dharmaṃs Tathāgato jānāti. Sarva-dharmān api Tathāgata eva jānāti: Ye ca te dharmā, yathā ca te dharmā, yādṛśāś ca dharmā, yal-lakṣaṇāś ca te dharmā, yatsvabhāvāś ca te dharmāḥ.

佛所成就第一希有難解之法，唯佛與佛乃能究盡，諸法實相，所謂諸法如是相，如是性，如是體，(如是力，如是作，如是因，如是緣，如是果，如是報，如是本末究竟等)。

P. 316 (1) **M.** 29. Ariya-par. (p. 163); 漢文缺之。

S. 6. 1. 1.; 同文 本行集經 (辰八 49b).

P. 317 (1) **Saddharmap.** V; 同本 妙法蓮華經 (盈一 20b).

Dharma-svāmī Tathāgataḥ, sarva-dharmāṇāṃ rājā, prabhur, vaśī. Yaṃ ca Tathāgato dharmaṃ yatra upanikṣipati sa tathā eva bhavati. Sarvadharmāś ca Tathāgato yuktyā upadiśaty upanikṣipati. Tathāgata-jñānena upanikṣipati tathā ca upanikṣipati yathā te dharmāḥ sarvajña-bhūmim eva gacchanti. Sarvadharmârtha-gatiṃ ca Tathāgato vyapalokayati. Sarvadharma-artha-vaśita-prāptaḥ sarvadharma-adhyāśaya-prāptaḥ, sarvadharma-viniścaya-kauśalya-jñāna-parama-pāramitā-prāptaḥ, sarvajña-jñāna-saṃdarśakaḥ, sarvajña-jñāna-avatārakaḥ, sarvajña-jñāna-upanikṣepakaḥ Tathāgato 'rhan samyaksambuddhaḥ.

如來是諸法之王，若有所說皆不虛也。於一切法以智方便而演說之，其所說法皆悉到於一切智地。如來觀知一切諸法之所歸趣，亦知一切衆生深心所行，通達無礙，又於諸法究盡明了，示諸衆生一切智慧。

P. 319 (1) 先 p. 259 (2) に同じ。

P. 319 (2) **Saddharma-p.** II. v. 102; 同本 妙法蓮華經 (盈一 13a).

Dharma-sthitiṃ dharma-niyamatāṃ ca	是法住法位
nitya-sthitāṃ loki imāṃ akaṃpyāṃ	世間相常住
Buddhaś ca bodhiṃ-pṛthivīya-maṇḍale	於道場知已
prakāśayiṣyaṃti upāya-kauśalyaṃ.	導師方便說

P. 320 (1) **Saddharma-p.** XIV. v. 43;
同本 妙法華蓮經踊出品 (盈一 38a).

Anāśravā bhūta ime mi vācā	今我說實語
śruṇitvā sarve mama śraddadhadhvaṃ	汝等一心信
evaṃ ciraṃ prāpta mayâgra-bodhiṃ	我從久遠來
paripācitāś caeti mayāeva sarve.	敎化是等衆。

P. 321. (1) **Saddharma-p.** XV. vv. 1-3, 23;
同本 妙法蓮華經如來壽量品 (盈一 39b).

Aciṃtiyā kalpa-sahasra-koṭyo　　自我得佛來
yāsāṃ pramāṇaṃ na kadāci vidyate,　　所經諸劫數
prāptā mayā eṣa, tadā agra-bodhiṃ,　　無量百千萬
dharmaṃ ca deśemy ahu nitya-kālaṃ.　　億載阿僧祇
Samādayomī ahu bodhisattvān,　　常說法教化
bauddhasmi jñānasmi sthāpemi ca eva　　無數億衆生
Sattvāna koṭī-nayutān anekān　　令入於佛道
paripācayāmi bahu-kalpa-koṭyaḥ.　　爾來無量劫
Nirvāṇa-bhumiṃ c'upadarśayāmi,　　爲度衆生故
vinaya-artha sattvāna vadāmy upāyaṃ.　　方便現涅槃
na câpi nirvāmy ahu tasmi loke kāle　　而實不滅度
iha eva co dharmu prakīśayāmi.　　常住此說法

.....

Ciraṃ ciraṃ jāniya nitya-kālaṃ　　每自作是念
vadāmi sattvāna tathā tathâham :　　以何令衆生
kathaṃ nu bodhav upanāmayeyaṃ,　　得入無上慧
kathaṃ Buddha-dharmāna bhaveyu
iābhina iti.　　速成就佛身。

下 第九篇第三章 (p. 362) を參照せよ。

P. 323 (1)　S. 41. 6 and 13.
S. 55. 7; 同本 雜 (辰四 14b).
P. 323 (2)　A. X. 206; 同本 雜 (辰四 15a).
P. 324 (1)　S. 55. 54; 同本 雜 (辰四 36a).
P. 324 (2)　S. 55. 1; 同本 雜 (辰三 75a).
P. 324 (3)　S. 5. 7;　同本 雜 (辰四 61b), 別雜 (辰五 75a).
P. 325 (1)　現法 p. 204 以下を見よ。

第九篇

P. 334 (1)　M. 19. (vol. I. p. 118); 同本 中 102. 念經 (辰六 24b)
P. 334 (2)　Sn. 38. Dvāyatanupassana.
P. 335 (1)　M. 26. (vol. I. pp. 161-3); 同文 本事經 (辰六 36).

現法 pp. 21-23 參照。

P. 336 (1)　M. 117 Cattārisaka;
同本 中 189. 聖道經 (辰七 41b),　雜 (辰三 66).
P. 336 (2)　現法 pp. 93-95 幷に 下 p. 382 を見よ。
P. 336 (3)　It. 107; 同本 本事經 (辰六 37a).

Sāgārā anāgārā ca　　出家與居家
ubho aññoñña-nissitā　　展轉互相依
ārādhayanti saddhammaṃ　　由力法二輪
yogakkhemam anuttaraṃ.　　速至涅槃樂。

P. 337 (1)　S. 47. 18; 同本 雜 (辰四 53a), 別雜 (辰五 34).
現法 p. 243. を見よ。
P. 338 (1)　A. III. 89; 同本 雜 (辰三 71b), 本事經 (辰六 45b).
P. 339 (1)　A. III. 82; 同本 雜 (辰三 73b).
P. 339 (2)　雜 (辰三 73b).
P. 340 (1)　先 p. 338 (1) に同じ。

Adhisīlaṃ adhicittañ ca　　增上戒心慧
adhipaññañ ca viriyavā　　三法勤精進
thāmavā dhitimā jhāyī　　勇猛堅固城
sato guttindriyo care.　　常守護諸根
Yathā pure tathā pacchā,　　如前如其後
yathā pacchā tathā pure,　　如後亦如前
yathā adho tathā uddhaṃ,　　如上如其下
yathā uddhaṃ tathā adho,　　如下亦如上
Yathā divā tathā rattiṃ　　如晝如其夜
yathā rattiṃ tathā divā,　　如夜亦如晝
abhibhuyya disā sabbā　　無量諸三昧
appamāṇa-samādhinā.　　映一切諸方
Taṃ āhu sekhaṃ paṭipadaṃ　　是說爲覺跡
atho saṃsuddhacāraṇaṃ　　第一淸凉集
taṃ āhu loke sambuddhaṃ　　我爲世間覺
dhīraṃ paṭipadantaguṃ.　　明行悉具足

Viññāṇassa nirodhena　　正念不忘住
taṃhakkhaya-vimuttino　　其心得解脫
pajjotass' eva nibbānaṃ　　身壞而命終
vimokho hoti cetaso.　　如燈盡火滅

P. 341 (1)　M. 117; 同本 中 (民七 41b). 先 p. 336 (1) に同じ。

P. 344 (1)　S. 47. Satipaṭṭhāna-saṃy.; 同本 雜 (辰三 39-44).

Etha kāye kāyânupassī viharati, ātāpī sampajāno ekodibhūto vippasanna-citto samāhito ekaggacitto kāyassa yathābhutaṃ ñāṇāya.

於身身觀住，精勤方便，不放逸行，正智正念，寂定於心。

P. 344 (2)　S. 47. 42; 同本 雜 (辰三 39b).

P. 344 (3)　M. 10. Satipaṭṭhāna; 同本 中 90. 念處經 (民六 18f).

P. 345 (1)　M. 119. Kāyagatasati; 同本 中 81. 念身經 (民五 112f).

P. 346 (1)　S. 47. 7; 同本 雜 (辰三 41b). 先 p. 220 (2) に同じ。

P. 347 (1)　S. 47. 20; 同本 雜 (辰三 42).

P. 348 (1)　A. IV. 13; 同本 雜 (辰三 81a).

P. 348 (2)　A. IV. 14; 同本 雜 (辰三 81b),
七處三觀經第十一經 (辰六 8b 一行以下).

P. 349 (1)　S. 51. Iddhipāda-saṃy utta.

P. 349 (2)　S. 51. 11.

Chando na ca atilīno, na ca atipaggahīto, na ca ajjhattaṃ saṅkhitto, na ca bahiddhā vikkhitto bhavati, paccāpūresaññī ca viharati, yathā pūre tathā pacchā, yathā pacchā tathā pūre; yathā adho tathā uddhaṃ, yathā uddhaṃ tathā adho; yathā divā tathā rattiṃ, yathā rattiṃ tathā divaṃ; iti vivaṭena cetasā apariyonaddhena cetasā sappabhāsaṃ cittaṃ bhāveti.

P. 349 (3)　S. 16. 9; 同本 雜 (辰四 39).

P. 349 (4)　M. 77. Sakuludāyī (vol. II pp. 11-32); 同本 中 207. 箭毛經 はこの分を缺き，中 86. 說處經 (民六 3-4) に同文あり。

P. 349 (5)　S. 16. 9; 同本 雜 (辰四 39). S. 51. 11 &c.

P. 351 (1)　S. 48. 43-44.

P. 351 (2)　S. 48. 8-10; 同本 雜 (辰三 48-49).

P. 352 (1)　S. 48. 50; 同本 雜 (辰三 50a).

P. 352 (2)　A. IV. 32; 同本 雜 (辰三 51a). その偈文に曰く。

Dānañ ca peyyavajjañ ca,　　布施及愛語
atthacariyā ca yā idha,　　或有行利行
samānattatā dhammesu,　　同行諸行生
tattha tattha yathārahaṃ.　　各隨其處應。
Ete kho saṅgahā loke　　以此攝世間
rathass 'āṇī va yāyato,　　猶車因釭連
ete ca saṅgahā nāssu　　世無四攝事
na mātā putta-kāranā,　　母恩子忘養
labetha mānaṃ pūjaṃ vā　　亦無父等尊
pitā vā putta-kāranā.　　謙下之奉事。
Yasmā ca saṅgahā ete　　以有四攝事
samavekkhanti paṇditā,　　隨順之諸故
tasmā mahantaṃ papponti　　是故有大士
pāsaṃsā ca bhavanti te.　　德被於世間。

P. 354 (1)　S. 45. 4; 同本 雜 (辰三 64a). 先 p. 332 を見よ.
參照。 尙德目の分類につきては Ch. Ag. pp. 104-105 を參照すべく.又 Aṅguttara-nikāya の中には下の如き列擧あり。

A. I. xx. 22-32: Saddhā, viriya, sati, samādhi, paññā (五 bala = indriya).

A. II. ii. 1: Paṭisaṅkhāni, bhāvanā (p. は身口意の惡業を棄て善業に就き自ら淨むる事 bh. は學によりて貪瞋痴を棄つる事)。

A. II. ii. 2: 同上 (bh. は viveka, virāya, nirodha, vossagga-にて七覺分を修する事)。

A. II. ii. 3: 同上 (bh. は四禪を修する事)。

A. II. xv. 9: Sati, samādhi.

A. IV. 151-152: bala = indriya: saddhā, viriya, sati, samādhi.

A. IV. 153: paññā, viriya, anavajja, saṅgāha.

A. IV. 154: sati, samādhi, anavajja, saṅgāha.

A. IV. 155: patisaṅkhāna, bhāvanā, anavajja, saṅgāha.

A. IV. 163; saddhā, hiri, otappa, viriya, paññā.

A. V. 1-2; A. IV. 163; 五力.

A. V. 46-47; 五 Sampadā: Saddhā, sīla, suta, cāga, paññā.

A. VII 3.-4; saddhā, viriya, hiri, otappa, sati, samādhi, paññā.

P. 354 (2) S. 46. Bojjhaṅga-saṃyutta; 同本 雜 (辰三 46b-61).
Ch. Ag. pp. 105-106 を見よ。

P. 355 (1) S. 46. 1.

P. 355 (2) S. 46. 4; 同本 雜 (辰三 58a).

P. 356 (1) S. 46. 14-16.

P. 356 (2) Channa (闡陀) に對して—S. 35. 87; 同本 雜 (辰四 77).
一年少比丘に對して—S. 35. 74; 同本 雜 (辰四 10).

P. 356 (3) Dīghāvu (長壽) に對して—S. 55. 3; 同本 雜 (辰四 11b-12).
沙羅 (Sarakāni 又は Sāḷha?) に對して—雜 (辰四 12a). S. 55. 23?
Anāthapiṇḍika (給孤獨) に對して—S. 55. 27; 同本 雜 (辰四 11).

P. 356 (4) 十念に就ては,——
A. X. 56-57; 同本 增 (戾三 27b).
A. I. 20. 93-102; 同本 增 (戾一 5-6).

P. 357 (1) S. 54. 1; 同本 雜 (辰三 68b).
S. 54. 13; 同本 雜 (辰三 70).

P. 357 (2) 先 p. 117 (1) に同じ。

P. 357 (3) A. VIII. 30; 同本 中 74. 八念經 (戾五 101).
Ch. Ag. p. 47. no. 74 を見よ.

P. 363 (1) Jāt., Nidāna-kathā. vv. 1, 4-5.

Jāti-koṭi-sahassehi pamāṇa-rahitaṃ hitaṃ
lokassa loka-nāthena kataṃ yena mahesinā; .....
Taṃ taṃ kāraṇam āgamma desitāni jutimatā
apaṇṇakâdīni purā jātakāni mahesinā.

Yāni yesu ciraṃ Satthā loka-nittharaṇatthiko.
anante bodhi-sambhāre paripācesi nāyako.

P. 364 (1) 同上 vv. 125-126f.

Handa buddhakare dhamme vicināmi ito c'ito
uddhaṃ adho dasa-disā yāvatā dhamma-dhātuyā.
Vicinanto tadā dakkhiṃ paṭhamaṃ dāna-pāramiṃ
pubbakehi mahesīhi anuciṇṇaṃ mahā-pathaṃ. &c.

第 十 篇

P. 369 (1) S. 47. 14; 同本 雜 (辰三 44).

P. 370 (1) S. 55. Sotāpatta-saṃy.; 同本 雜 (辰三 75a-79a, 辰四 35b-37b).
A. VI. 26; 同本 雜 (辰三 15a).

Supaṭipanno Bhagavato sāvaka-saṅgho, ujupaṭipanno....., ñāya-paṭipanno....., samīcipāṭipanno....., yadidaṃ cattāri purisayugāni, aṭṭha purisapuggalā, esa Bhagavato sāvaka-saṅgho āhuneyyo pāhuneyyo dakkhiṇeyyo añjalikaraṇīyo anuttaraṃ puñña-khettaṃ lokassa..... Ariya-kantāni sīlāni akaṇḍhāni acchindāni asabalāni akammāsāni bhujissāni viññūdasatthāni aparāmaṭṭhāni samādhi-saṃvattakāni.

P. 370 (2) A. VIII. 19; 同本 增 (戾三 5-6).
M. 123. Acchariya-d.; 同本 中 32. 未曾有法經 (戾五 48f).

P. 372 (1) A. VIII. 10; 同本 中 122. 膽波經 (戾六 42) &c.

P. 373 (1) S. 8. 8; 同本 雜 (辰四 65a). 先 p. 368 を見よ。

P. 373 (2) A. V. 195.

Padumaṃ yathā kokanadaṃ sugandhaṃ.
pāto siyā phullaṃ avīta-gandhaṃ
Aṅgīrasaṃ passa virocamānaṃ
tapantam ādiccam iv'antalikkhe.

參照。 S. 8. 11; 同本 雜 (辰四 62b), 別雜 (辰五 75b).

Cando yathā vigata-valāhake nabhe 猶如滿盛月

virocati vītamalo va bhāṇumā　　無雲處空中
evam pi Aṅgīrasa tvaṃ mahāmuni　　光明照世界
atirocasi yasasā sabba-lokaṃ.　　名聞悉充滿

月出白蓮榮　　日現紅蓮敷　　從佛受化者
譬如華敷榮　　開彼宿善根　　悉令見道跡

P. 374 (1) Sn. 13. 下 p. 375 (1) に同じ。
P. 374 (2) D. 20 Mahāsamaya; 同本 長 19. 大會經 (民九 65).
Ch. Ag. p. 37. No. 19 を見よ。
P. 374 (3) D. 19. Mahāgovinda; 同本 長 3. 典尊經 (民九 25f).
先 p. 368 を見よ。
P. 374 (4) D. 32. Ātānatīya.
P. 375 (1) Sn. 13. Ratana-sutta. 同文。 Mahāvastu (vol. I. p. 290).

Yānīdha bhūtāni samāgatāni
bhūmāni vā yāni va antalikkhe
sabb' eva-bhūtā sumanā bhavantu
atho pi sabkacca suṇantu bhāsitaṃ.

一切有部毘奈耶雜事 (寒一 14a).

天阿修羅藥叉等　　來聽法者應至心
擁護佛法使長存　　各々勤行世尊敎
諸有聽徒來至此　　或在地上或居空
常於人世起慈心　　晝夜自身依法住。

P. 376 (1) Takakusu, Pāli Chrestomathy, pp. XXIV, 14-15 參照。
P. 376 (2) Ratana-sutta. 先 p. 375 (1) に同じ。
參照 A. IV. 34; 同本 增 (民一 46b). 現法 p. 165 を見よ
P. 377 (1) S. 47. 22.
P. 378 (1) S. 16. 13; 同本 雜 (辰三 86a).
P. 378 (2) 四分律 (列三 1).
P. 379 (1) 摩訶僧祇律 (列八 2a).
P. 379 (2) 梵網經 (列一 12a).
P. 382 (1) 現法 pp. 93-95 を見よ。
P. 383 (1) It. 98; 同本 本事經 (辰六 39b).

P. 383 (2) It. 107; 同上 (辰六 37a)。先 p. 336 (3) を見よ。
P. 384 (1) S. 41. Citta-saṃy.; 同本 雜 (辰三 19-22).
P. 384 (2) S. 55. 37; 同本 雜 (辰三 94a).
P. 384 (3) A. VIII. 24-25; 同本 雜 (辰三 94b).
P. 385 (1) S. 35. 132; 同本 雜 (辰二 22a).

Sīluttamā pubbatarā ahesuṃ,　　古昔婆羅門
te brāhmaṇā ye purāṇaṃ saranti,　　修習妙勝戒
guttāni dvārāni surakkhitāni,　　得生宿命智
ahesuṃ tesaṃ abhibhuyya kodhaṃ.　　關閉諸根門
Dhamme ca jhāne ca ratā ahesuṃ,　　調伏於口過
te brāhmaṇā ye purāṇaṃ saranti,　　娛樂眞禪諦
ime ca vokkamma jappāmaseti.　　古昔行如是
gottena mattā visaman caranti.　　捨本眞實行
Kodhâbhibhūtā puthu-attadaṇḍā　　而存虛僞事
virajjhamānā tasathāvaresu　　守族姓放逸
agutta-dvārassa bhavanti moghā　　從諸根六境
supineva laddhaṃ purisassa vittaṃ.　　不守護關門
Anāsakā thaṇḍilasāyikā ca　　猶如夢得寶
pātho sināñaṅ ca tayo ca vedā　　自餓居塚間
kharājinaṃ jaṭāpaṅko　　三浴誦三典
mantā sīlabbataṃ tapo.　　編髮衣皮褐
Kuhanā vaṅkaṃ daṇḍā ca　　戒盜灰坌身
udakā ca manāni ca　　麤衣以蔽形
vaṇṇā ete brahmaṇānaṃ　　執杖持水瓶
katā kiñcikkhabādhanā.　　假形婆羅門
Cittaṃ ca susamāhitaṃ　　以求於利養
vippasannaṃ anāvilaṃ　　善攝護其身
akhilaṃ sabbabhūtesu　　澄淨離塵垢
so maggo brahmapattiyā.　　不惱於衆生
　　是道婆羅門。

P. 387 (1) Sn. 19.; 同本 中 156. 梵波羅延經 (民六 96).
P. 392 (1) 現法 pp. 50-51 を見よ。
P. 392 (2) 一處止住の五非法——增 (民二 29a).
不定住の五功德——A. V. 223-224.
P. 392 (3) S. 22. 2; 同本 雜 (辰二 27).
P. 393 (1) 大迦旃の Avanti 止住。S. 22. 3; 同本 雜 (辰三 15 b) &c.
P. 394 (1) S. 35. 88; M. 145. Punnovāda; 同本 雜 (辰二 72).
P. 394 (2) 增 (民二 74b).
P. 395 (1) 佛陀の拘樓 (Kurū) に住せし事—
S. 12. 60.
S. 12. 66; 同本 雜 (辰二 66b) には王舍城。雜阿には 辰二 48a, 55a, 68b-69b, 70b, 75a. その他略す。
佛陀の Pañcāla (半闍羅) に住せし事
S. 22. 81; 同本 雜 (辰二 11b).

參照の結尾として，根本佛教の總括ともいふべき世間經の文を掲ぐ。
Pp. 93, 98 等にもあり。

L O K O (世 間 經)

A. IV. 23; 同本 It. 112; 同本 中 137 (民六 69b).

Loko Tathāgatena abhisambuddho, lokasmā Tathāgato visaṃyutto, loka-samudayo Tathāgatena abhisambuddho, loka-samudayo Tathāgassa pahīno, loka-nirodho Tathāgatena abhisambuddho, loka-nirodho Tathāgatassa sacchikato, loka-nirodhagāminī paṭipadā Tathāgatena abhisambuddhā, loka-nirodhagāminī paṭipadā Tathāgatassa bhāvitā.

Yam sadevakassa lokassa samārakassa sassamaṇabrāhmaṇiyā pajāya sadevamanussiya diṭṭhaṃ, sutaṃ, mutaṃ, viññātaṃ, pattam, pariyesitaṃ, anuvicaritaṃ manasā, yasmā taṃ Tathāgatena abhisambuddhaṃ, tasmā Tathāgato ti vuccati.

Yañ ca rattiṃ Tathāgato anuttaraṃ sammāsambodhiṃ ābhisambujjhati, yañ ca rattiṃ anupādisesāya nibbāna-dhātuyā parinibbāyati, yaṃ etasmiṃ antare bhāsati, lapati, niddisati, sabbaṃ taṃ tath' eva hoti no aññathā, tasmā Tathāgato ti vuccati.

Yathāvādī Tathāgato tathākārī, yathākārī Tathāgato tathāvādī, iti yathāvādī tathākārī, yathākārī tathāvādī, tasmā Tathāgato ti vuccati. Sadevake loke samārake sabrahmake sassamaṇa-brahmaṇiyā pajāya sadevamanussāya Tathāgato abhibhū anabhibhūto aññadatthudaso vasavattī, tasmā Tathāgato ti vuccati.

如來自覺世間，亦爲他說，如來知世間，如來自覺世間習，亦爲他說，如來斷世間習，如來自覺世間滅，亦爲他說，如來世間滅作證，如來自覺世間道跡，亦爲他說，如來修世間道跡。

若有一切盡普正，有彼一切如來知見覺得，所以者何（眞諦審實）。

如來從昔夜覺無上正盡之覺，至于今日夜於無餘涅槃界當取滅訖，於其中間，若如來口有所言說，有所應對者，彼一切是眞諦不虛，不離於如，亦非顚倒。

若說師子者，當知說如來，所以者何，如來在衆有所講說，謂師子吼，一切世間天及魔梵沙門梵志，從人至天，如來是梵有，如來至冷有，無煩亦無熱，眞諦不虛有。

Sabbalokaṃ abhiññāya	知一切世間
sabbaloke yathātathaṃ,	出一切世間
sabbaloka-visaṃyutto,	說一切世間
sabbaloke anūpamo.	一切世如眞
Sabbe sabbâbhibhū dhīro	彼最上尊雄
sabbagantha-ppamocano,	能解一切縛
phuṭṭhassa paramā santi	（是故當樂禪

nibbānaṃ akutobhayaṃ.	住遠離極定）
Esa khīṇâsavo Buddho	（無憂離塵安
anīgho chinnasaṃsayo	無礙諸解脫）
sabbakamma-kkhayaṃ patto	得盡一切業
vimutto upadhisaṅkhaye.	生死盡解脫
Esa so Bhagavā Buddho	（彼れは世尊佛陀，
esa sīho anuttaro	彼れは無上師子，
sadevakassa lokassa	人天世界のために
brahma-cakkaṃ pavattayi.	梵輪を轉じぬ。）
Iti devā manussā ca	是天亦是人
ye Buddhaṃ saraṇaṃ gatā,	若有歸命佛
saṅgamma taṃ namassanti	稽首禮如來
mahantaṃ vītasāradaṃ.	甚深極大海
Danto damayataṃ seṭṭho	（既に制して制する者の上首
santo samayataṃ isi	既に寂して寂する仙人，
mutto mocayataṃ aggo	既に脫して脫せしむる上首，
tiṇṇo tārayataṃ varo.	既に度して度せしむる最上。
Iti h etaṃ namassnti	彼れを人々は禮す
mahantaṃ vītasāradaṃ	大なる度海者を，
sadevakasmiṃ lokasmiṃ	人天の世界にて
natthi te paṭipuggalo.	彼れに比すべき者なし）。

一般用語索引

（總て發音のままにて，長音は短音と同一と見做し，
ンは最後におく一同じ漢字を一括す）。

ア　行

愛語　353.
愛欲，愛念　46, 195.
惡趣　249, 323.
惡德　170*f*, 210, 226, 287.
惡魔（魔を見よ）　201.
味　256.
アトマン　17, 19, 20, 22, 24, 36, 82, 170.
阿那含（不還を見よ）。
安那般　356.
油　266, 282, 347.
阿羅漢（聖者を見よ）　275*f*, 278, 281, 300, 350, 372.
阿蘭若（林居を見よ）。

猗　354, 355.
意業　135*f*.
意志　247.
慰籍　250, 378.
一切勝者　167.
一切世間　313.
一種子　279.
一生補處　365.
一乘，一乘道　34, 43, 59, 76, 77, 87-89, 94, 333, 336, 347, 359, 374-375.
一神教　16.
一日一食　286.
一味　315, 318, 371.
一來　272, 277, 279.
泉　255.
衣服　355, 388.
醫方　65-66.
因果　248, 250.
因緣，因緣成立　225, 229, 243, 244, 247, 257.
因緣（譚）　362, 364.
引攝　328.

有　225, 227, 230.
有愛　175.
有爲　298, 306.
有無二端　53, 258, 272, 298, 333.
雨安居　392.
雨中靜坐　307.
牛　160, 388.
優婆塞，優婆夷　381*f*, 377.
馬　220.

慧　338, 351, 352, 353, 358, 364.
畫，畫師　215, 239.
エネルギー　211.

緣起 319.
炎陽 256.
遠離 240, 253, 258, 357.

黄金誘惑 197.
王者 388.
往生 325*f*.
應報 230.

カ　行

我 244, 294.
我見 66, 226, 295.
我見取 177.
我慢 226.
我欲 263.
界 247.
戒，戒行 41, 338, 356, 364, 370, 385.
戒取 177.
戒德香 219.
戒律 369, 377*f*.
懷疑 200.
開顯 314*f*, 322.
快樂，快樂主義（苦を見よ） 44, 45, 46, 327
火定 282, 299
火積喩 155.
火喩 103.
火宅 168.
過患 257.
餓鬼 168.
覺（受を見よ）。
覺知
花香 219.
渴愛 62, 64, 225, 227, 230, 246 295
龜 220.
羯磨（業を見よ） 226.
感覺（受を見よ）。
觀心 146, 210, 216, 221.
觀法 28, 344, 345.
完成式 38.

喜 354, 355.
犧牲（祭祀を見よ） 389.
奇蹟（神通を見よ） 142.
僞善 177.
休息 356.
境（界を見よ） 226.
行 227, 234*f*, 237*f*.
行と業 238.
行住坐臥 265, 286.
敎訓勸誨 142.
キリスト敎 3, 11, 182, 326
疑惑 174–176.

苦 62, 66, 163*f*, 243, 246, 346, 395.
苦行 45–50.
苦樂 51, 52, 172, 259, 267, 321, 355.
空 290, 306, 395.
空慧解脫 306.
空觀 216, 242, 244, 301, 303*f*, 310.
空寂 308.
久遠 312, 320, 321, 363.

俱解脫 276, 279, 286.
俱舍 244.
孔雀 214.
クスマ樹 213.
究竟相（涅槃） 310.
究竟安隱 297.
功德 335, 379.
雲と地 150.
車 353.

家々 379*f*.
袈裟 381.
解脫 25*f*, 33, 263, 266, 321.
結 176, 179*f*.
決心 247.
月喩 157.
外道 130*f*, 378.
見 42, 53, 175.
見到 276, 279.
犬戒 49.
賢者 38.
現身超絕 263*f*, 303.

五蘊 41, 53, 62, 65, 154, 236*f*, 254, 255, 256, 263–265, 295, 345.
五蓋，五障 46, 147, 173*f*, 287, 288, 345.
五感，五官 271, 274.
五根，五力 148, 350*f*, 371.
五趣 168, 324.
五知（如來の） 147.
五比丘 60, 61, 81, 84.
五分結（上下） 176*f*, 270, 351.
五欲，五欲生活 102, 148*f*, 168, 200, 225, 267, 334.
香 264, 373.
業 23, 24, 135*f*, 229, 248.
業因業果業報 246–253.
子を失ひし母 252.
後悔（石山喩） 149.
呼吸 344, 356.
廣說 148.
交接 155, 205.
古道，古風 36, 385*f*.
耕田 339.
此世他世 269.
降魔 63.
光明 152.
光明心 349.

サ　行

妻（夫婦を見よ） 160.
災害 169.
在家 336, 381.
祭祀 5, 16, 35, 60, 186, 218, 388.
財施 383.
娑羅樹 218, 219.
猴 154, 220, 346.
醒めたる者 150.
三學 281, 295, 323, 338–340, 348, 359, 361.

三業（身口意を見よ）。
三事合會 230, 233.
三示現 142.
三時殿 102.
三世諸佛 74f, 313, 314, 333, 337, 359, 361, 374, 375, 377.
三德 26.
三毒，三縛，三心穢等 172, 228.
三寶 374, 376, 378.
三昧 353.
三明 107, 223, 286, 289, 290, 300.
三明六通 286, 348.
僧伽 34, 55, 90, 333, 356, 367-396.
僧伽と世俗 381f.
產業 149.
僧佉 26, 33, 271.
慚愧 253, 352.
山間 216.
山湖 158, 215, 289.

死 167, 197, 201, 284, 346, 356.
思，思身 238f.
思惟 348.
四意斷 87, 89, 343, 347f, 353, 371.
四期修行 38.
四衆 377, 381.
四食 225, 229.
四姓 4, 7, 192, 385.
四攝事 352, 361, 384.
四神足 83, 343, 348, 371.
四禪 52, 83, 87, 89, 90, 107, 147, 157, 244, 287-288, 346, 357.
四大，その滅 300f, 304, 305.
四諦 8, 62-66, 69, 87, 88, 93, 165, 206, 229, 303.
四念處 76, 157, 343, 351, 356, 371.
四無所畏 70, 77.
四無量 158, 242, 290f, 346, 361.
四門遊觀 102.
四漏 46.
事火 196.
止觀 303.
色 66, 177, 230, 236, 304, 308, 309.
識 226, 233, 238.
宿命 250, 289, 362.
宿命通 349
師子吼 296, 361, 392.
師主（佛陀を見よ） 361, 369, 372, 377.
師弟 134.
自性 26.
自燈明 369.
自心清淨 359.
日月 298, 304.
出世間 336.
嫉妬 204, 305.
質直無虛（如實不虛を見よ） 92.
悉地 28.
實相（諸法實相を見よ） 21, 25, 242, 258-259.
疾病 389.
慈悲（佛陀の） 291, 297, 314, 321.
慈悲 328. 334, 361, 364.

七有 279f.
七結，九結 46.
七婦 207f.
七寶 295, 324, 327.
七菩提分，七覺支 89, 343, 345, 348, 354f, 371, 395.

捨，平心 354, 355, 364.
寂者牟尼 38, 305.
釋子沙門 371.
邪見 299.
沙門 50.
取 177, 180, 227, 230.
受 51, 88, 227, 232, 237, 244, 246, 345.
修 352.
修行 285.
修習斷 348.
授記 363.
宗教 4, 244.
儒教 4.
衆生 154, 191, 256, 313, 334, 359.
衆生心 170.
集諦 62, 223f.
重擔 151, 270.
出家と在家 381f.
執持 364.
種熟 364-365.
十戒 323.
十善 208-228.
十二因緣 225, 228, 229, 231, 232.
十如是 314.
十念 356.
十方諸佛 379.
呪力，マーヤー 35
定 338, 354, 355.
定心 358.
食 222, 227.
食事 286, 388.
淨行成就 273.
淨不動道 292f.
淨土（極樂を見よ）
聖求 164, 335.
聖と非聖 334.
聖者 53, 82, 201, 270, 275f, 281, 284, 285, 295, 300, 350, 372.
聖衆俱會 36.
聖弟子 42, 92, 370.
諸行無常 252, 253, 254-260, 292.
諸佛尊法 74f.
諸法 314, 317.
諸法實相 21, 54, 91, 301, 310-322, 328.
諸法無我 253, 254-260, 292.
植物 152.
正見 228, 340, 341.
正語 340, 341.
正業 340, 342.
正志 340, 341.
正邪 333f, 340-343.
正精進 340, 342.
正受滅 243.
正道 35.

正念（念を見よ） 146, 358.
正法 378.
正法久住 377f.
正命 340, 312.
精勤 358.
精進 348, 351, 354, 355, 364.
證悟 302, 303, 358.
上座 378.
生死 23f, 166, 167, 237, 250.
生老病死 62, 165, 228, 259, 304, 319, 335.
常住 300, 363.
小乘 244.
小兒 150, 154.
生天 335.
成道（佛陀の） 72, 194, 217, 270, 320.
唱名 328.
少欲 357.

信，信仰 9-10, 34, 40, 42-43, 46, 351, 353, 221, 312, 351, 353, 359, 369, 378.
身 274, 356.
身觀 344, 345.
身口意 135f, 145, 234, 338, 381.
身證 276, 279.
心 239f, 246, 271.
心穢 185f, 242.
心觀 344, 345.
心行 239f, 241, 246, 357.
心解脫 242, 270f, 276, 279, 282-284, 285, 290, 296, 297, 301, 358.
心と境 247.
心理 236, 244.
神我 26.
神通（三明を見よ） 142, 286, 349
神識 282.
眞恚 174, 175, 176, 190, 204.
眞實 298, 364.
眞如 242.

數 352.
隨護斷 348.
隨信行 275, 278, 286.
隨法行 275, 279.
睡眠 174.
須陀含 （一來を見よ）。
須陀洹 （預流を見よ）。
墨書 215.

施 363.
井水喩 153, 285, 294.
西方，西北 392, 395.
成立因緣 254.
世界（界を見よ） 247, 258, 272.
世界の邊際 268f.
世間 66, 85, 165, 325, 336.
世相 246.
世尊 85.
善惡 150, 171, 228, 395.
善業 323.
善根 （功德を見よ） 280.
善趣 280, 283, 302. 323-326, 379, 383.

善逝 88.
善人往道 281f.
千俱胝 320, 362.
前後上下左右 339, 349.
前生 （宿命を見よ） 362.
禪宗 215.
專心 215, 344.
漸次教誨 145f.
洗濯衣 264.
栴檀 219.
旃陀羅 186.
戰鬪生活 204.
賤民 (vasala) 186f.
川流 355.

想 237, 238, 247, 348.
象 212, 220.
象跡喩 90.
觸 227, 232, 246.
增上學 339.
爪上土 156.
像法 378.
藏六龜 220.

タ　行

大會 374, 375.
大海 368, 370, 371, 382.
大我智見 33.
大仙 191.
他心觀察 142.
他心通 349.
玉蟲 213.
達磨 21.
誕生（佛陀の） 217.
斷々 348.

智慧解脫 40, 276, 279, 286
智慧證悟 250, 263.
畜生 168, 334.
地獄 168, 250, 374.
知足 357, 383.
擇法 354.
中觀 44.
中道 44f, 62, 244, 333.
彫刻 220.
調戲 174, 177.
沈水 219.

月 190.
月夜 211, 219.

剃髮行者 (muṇḍa) 187.
弟子衆 370.
哲學 244.
天 356.
天眼通 350.
天耳通 349.
天界 168, 249, 250, 280.
天台 100.
天然 169, 210-222.
轉生 225.

傳道，宣言 107, 197, 391-396, 380.
轉法輪 45, 54, 69*f*, 78, 81*f*, 218, 374.

燈火喩 26.
道行 338-360.
道諦 331-366.
獨覺 365.
德目 258, 350-353.
毒水喩 255.
到彼岸 268.
動物 219.
友，伴侶 151.
鳥 212, 214.
同利 353.
貪瞋痴 172, 222, 229, 246, 278.
貪欲 174, 175, 176, 179, 190, 254.

ナ 行

謎 159.
夏の山林 211.

二端 45.
二重道德 336, 383.
二邊中道 244, 258.
入定 282.
入滅 272, 282.
如意 (神通を見よ) 349.
如實 92.
如實不虛 88, 165, 313, 318.
如來 7, 59, 61, 69-70, 76, 81-95, 295, 301, 310-322, 352, 359.
如來，開道者 40, 94.
如來，度主 92, 99.
如來の死後 86, 284.
如來の出世 259.
如來の道 366.
如來の守る所 90.
人間 168.
人間生正覺 226.
人身 165.
人法一如 92-94, 312, 319, 322.
忍辱 353, 364, 383.

涅槃 33, 40, 99, 152, 156, 221, 242, 267, 281, 303, 335, 360, 382.
涅槃の階段 274-284.
涅槃の究竟相 297-304.
涅槃の實行 285-296.
涅槃，有餘と無餘 37, 274, 282, 285, 286, 289.
涅槃會 218.
念 278, 351, 353, 354.
念佛 328, 356.

ハ 行

芭蕉 256.
八功德水 327.
八敬法 204.
八識 244.
八聖道 63, 87, 338*f*, 340*f*, 395.

八大人念 357.
八輩 376.
罰 135*f*.
花 212, 280.
母 252.
バービマ 193.
波羅密 360, 363*f*, 365.
婆羅門 50, 134, 150, 187*f*, 189-191, 310, 370, 371, 385*f*.
婆羅門敎 301, 385, 395.
婆羅門法 387.
パロデー 159.
般若 28, 303*f*, 310.
般涅槃 297, 280.

彼岸 273, 298.
比丘尼 204, 268, 377, 382.
非時食 50.
非想非非想 294, 283.
火花 281.
白衣 381*f*.
百八煩惱 181, 246.
譬喩 151.
病苦 265, 266, 356.
平等 82*f*.

不壞淨信 43, 323, 351, 356.
不苦不樂 51, 52.
不還 271, 277.
不戲樂 358.
不死の道 40, 195.
不死の門 (不滅) 39, 42, 351.
不淨 346, 348.
不淨觀 356.
不放逸 202, 286, 369.
布敎 (傳道を見よ)。
福田 370.
布薩 219, 380.
布施 352.
二つの鳥 170.
婦人 150, 195, 203-209.
佛敎と佛陀の人格 11, 29, 34, 41, 42.
佛敎の淵源 15*f*.
佛敎の宗敎 33, 91, 293.
佛敎の發足點 31*f*.
佛果 322.
佛種，佛種成熟 322, 364.
佛性 170, 310-322.
佛陀 6-11, 39, 42, 45, 46, 47, 54, 59, 60-64, 82*f*, 101, 104, 357.
佛陀師主 143, 148, 365.
佛陀と梵天 299, 300.
佛陀の一生と天然 216-218.
佛陀の河邊說法 187.
佛陀の訓誨 171, 202.
佛陀の人格 99*f*.
佛陀の人間生身 161, 222.
佛陀の前生 364.
佛陀の達磨 42.
佛陀の誕生 217.
佛陀の入滅 283.

佛陀の法嗣 123, 213.
佛陀の法身 161.
佛陀の梵天身 161.
佛陀の摸倣 361, 365.
佛陀の遊化 395.
佛誕會 218.
夫婦 134, 207-208, 388.
父母 133.
浮木喩 156.
孵卵 339.
ブルシヤ 17, 18.
忿怒 177, 199.

蛇 154, 220.

放逸 180.
法 221, 308, 356, 360.
法王 86, 88, 94, 316, 317, 372
法を見る者 161.
法界常住 259, 319.
法義 384.
法性一如 95.
法位法住 78, 244, 259, 319.
法施 383.
法輪 69*f*, 81*f*.
北方 394*f*.
菩薩 320, 328, 361-366, 379.
菩提 91, 244, 311, 320, 328, 334, 335, 336, 365.
菩提成熟 364.
菩提樹 60, 72.
方便 314.
泡沫 219, 256.
梵 18*f*, 37, 70.
梵志 189.
梵乘 40, 353.
梵的の人 37, 38.
梵天 191, 280, 282, 298, 299, 324, 327, 374.
梵天勸請 72-73, 300, 374, 391.
梵天婆句 300.
梵涅槃 33.
梵輪 70*f*, 94, 161.
本願 328.
煩惱 228, 266-268, 273.
凡夫 170*f*.

マ 行

魔 106, 181, 193*f*, 282, 300, 324.
魔鈎 181, 201.
魔境 181, 201.
魔軍 196.
屈れるものを直くす 143.
慢 175, 177, 179.

未曾有法 372.
道（道諦を見よ） 35, 37.
名色 23, 33, 227, 233, 304.
明行具足 37.

無爲 297, 298.

無爲界 323.
無憂樹 217.
無我 67, 243, 256, 265, 395.
無記 305, 363.
無罪 352.
無色 230, 304.
無常 67, 167, 168, 242, 243, 246, 250, 255, 265, 267, 395.
無上安隱 278, 335.
無所有 283, 290, 292, 293, 294.
無想 294.
無相 290, 292.
無相，無量，無所有三昧 242, 244.
無明 172, 175, 177, 226, 227, 228, 230, 231, 246.
無欲 364.
無漏 267, 273, 286, 350.
無量 340.
無量光，無量壽 326.
麥と穢麥 152.
ムンジヤ草 160.

滅諦 261*f*.
滅 62, 284.
明暗先後 186.

默 305.
木髓喩 157.

ヤ 行

山 213.

唯識 234, 244.
融會 291, 297, 312, 365.
猶太教 4.

瑜伽 28, 33, 271, 350.
欲 230, 348.
欲望 247.
欲念 171.
預流 43, 272, 278, 279.
預流分 350.

ラ 行

利行 353.
律儀斷 347.
流星 283.
龍象 220, 373.
凉風 268.
輪廻 242, 324, 338.
林居 211, 212, 216, 218, 294, 307, 344, 357.
略說 148.

類例對照 150.
流轉 166, 202, 248, 249.

蓮華 158, 316, 373.

驢 220.
漏 66, 177, 180.
六感, 六識 224, 229, 247.
六窓一猿 234.
六入 41, 146, 153, 227, 237, 267, 271, 306, 345.
六畜一束喩 153.
六方禮拜 133-134.
臘八 218.

ワ 行

若綠 212.
和合 372.
エダ 15*f*, 327.
エダトンタ 27, 172, 244.

地名、人名、書名索引

（引用パーリ佛典を除きて）

ア 行

阿迦膩吒天 (Akaniṭṭha) 280.
惡 (Dūsī) 199.
阿育王 896.
阿夷羅跋提河 (Aciravatī) 371.
阿那律 (Anuruddha) 86, 90, 299.
阿難陀 (Ānanda) 215.
アーパスタンバ法典 38.
アモス 167.
阿彌陀 (Amita) 326*f*.
阿羅羅迦羅摩 104.
阿臘毘比丘尼（曠野） 200.
阿臘毘（地名） 384.
阿槃提 (Avantī) 393.
鴦倶利摩羅 (Aṅgulimāla) 141.
アンバッタ 384.
意著天 (Manosatta) 138.
壹奢能伽羅林 (Icchānaṅgala) 357.
インド河 394.

優竭 (Ugga) 384,
優波迦 (Upaka) 60, 104.
優波折羅 324.
ウパニシヤド 3, 20*f*, 34, 44, 201, 236, 240, 241.
優羅離（尼揵） 137*f*.
有部 244.
優樓頻羅 (Uruvelā) 104
王舍城 (Rājagaha) 372.

カ 行

カウシータキ 327.
覺礫拘荀太佛 (Kakusandha) 199.
迦葉（三人） 108, 142.
迦毘羅城 (Kapilavatthu) 357.
迦耶 (Gayā) 60.
迦樓陀夷 (Kāludāyī) 211.
殑伽河（恒水） 60, 155, 371.
歡喜園 (Nandavana) 327.
甘蔗王 (Okkāka) 388.
劫磨瑟曇 (Kammāssadamma) 395.

祇園 (Jetavana) 301, 393.
キリスト 41, 141, 154, 389.
金毘羅林 (Kimbila) 357.
苦行 (Tapassī) 135*f*.
拘尸城 (Kusinārā) 218.
久壽多羅尼 (Khujjuttarā) 209.

拘樓 (Kurū) 395.

化他自在，化樂天 324f.
差摩 (Khema, 梵 Kṣema) 264.
堅固 (Kevaddha) 385.
黑 (Kālī) 199.
極樂 (Sukhāvatī) 326f.
拘薩羅 (Kosalā) 155, 357, 387.
拘睒彌 (Kosambī) 155.
ゴシンガ (牛角林)
瞿曇彌 (Gotamī) 204.
瞿低迦 (Godhika) 201.
降魔經 199.
降伏經 196
金剛經 305f.
金光明經 311.
憍陳如 (Kondañña) 61.

サ 行

闍帝 (Sāti) 226f.
サーマーハテー尼 209.
舍羅浮 (Sarabhu) 371.
傷歌羅 (Saṅgārava) 142.
三十三天，忉利天 (Tāvatiṃsā) 324, 374.
算數目犍連 145.
四天王 324.
シヴ 48.
耆婆迦 (Jīvaka) 384.
舍衛城 (Sāvatthi) 384, 393, 394.
釋氏 (Sakkā) 384, 392.
舍利弗 (Sāriputta) 228, 392, 395.
シヤンカラ 244.
衆生主 (Prajāpati) 17.
手長者 (Hatthaka) 384.
種德 (Sonadaṇḍa) 385.
受樂 (Ragā) 195.
順世外道 50.
淨居天 (Suddhāvāsā) 374, 375.
ショペンハウエル (Schopenheuer) 225, 231, 249, 301.
生聞 (Jānussani) 90, 353, 385.
須達 (Sudatta) 381.
輸屢那 (Suṇa) 393f.
須毘耶 (Suppiyā) 209.
須菩提 (Subhūti) 307f.
赤馬天子 (Rohitassa) 268.
善賢 (Sumedha) 363.
善生 (Sujātā) 144, 207, 209.

タ 行

大迦葉 (Mahā-Kassappa) 213, 299, 349, 356.
大迦旃延 (Mahā-Kaccāna) 53, 258, 385, 392.
大迦賓 (Mahā-Kappina) 299.
大衆部 (Mahāsaṅghika) 379.
大淳陀 (Mahā-Cunda) 356.
大通智勝佛 375.

大目犍連 (Mahā-Moggalāna) 199, 299, 356.
帝釋天 (Inda) 327.
タツカシーラー 395.
ダニヤ (Dhaniya) 160.
陀驃 (Dabba) 282.
質多羅 (Citra, Citta) 384.
天現 (Devadaha) 392.
典尊 (Mahāgovinda) 298f.
東園 (Pubbārāma) 145, 215, 220.
獨住 (Ekavihāriya) 212.
兜率天 (Tusitā) 325.

ナ 行

那伽山 (Nāga) 372.
那拘羅父 (Nakulapitā) 263.
難陀母優多羅 (Uttarā Nandamātā) 209.
難提迦 (Nandikā) 89.
那爛陀 (Nālandā) 135, 139.
尼犍 (Niggantha) 135f.
日月燈佛 313.
尼連禪 (Neranjanā) 76, 194.
燃燈佛 363.

ハ 行

跋伽婆 (Bhāgava) 47.
Bhagavad-gīta, 神歌 26, 28.
白馬ウパニシヤド 170.
波斯匿 (Pasendi) 250.
ピンギヤニ (Piṅgiyani) 373.
頻毘娑羅 (Bimbisāra) 108.
フランシス (St. Francis) 103.
富樓那 (Pūrṇa, Puṇṇa) 393f.
プンニカー (Puṇṇikā) 50.
法華經 77f, 310-322, 312, 313, 314, 315, 317, 320, 375.
ポーロ (St. Paul) 183f, 354.
本生 (Jātaka) 219, 220, 320, 362, 363, 395.

マ 行

マイトラーヤナ ウパニシヤド 173.
摩揭陀 (Magadha) 72, 104, 108, 217.
マツチカ (Macchika) 384.
摩訶南 (Mahānāma) 384.
摩企 (Mahī) 371.
彌絺羅 (Miṭhilā) 251.
無畏王子 (Abhaya) 105.
無量義經 311.

ヤ 行

耶尤那 (Yamunā) 371.
勇長者 (Sūra) 384.
瑜伽敎條 (Yoga-sūtra) 66, 352.

ラ 行

離車 (Licchavi) 373.
藍毘尼 (Lumbinī) 217,
蓮華色 (Udpalavaṇṇā) 198.
魯醯遮 (Lohicca) 385.
鹿母毘舍佉 (Visakhā Migaramātā) 209.
鹿母樓觀 (Migaramātu Pasāda) 東園を見よ。
鹿野苑 (Migadāya) 60, 84, 213, 391.
ワイクンタ (Vaikuntha) 327.
婆四吒 (Vāseṭṭha) 251.
婆四吒 (Vāseṭṭhī) 251.
跋迦梨 (Vakkhali) 282.
婆磋種 (Vacchagotta) 381.
婆羅捺斯 (Vārānasī) 60, 218.
婆耆娑 (Vaṅgīsa) 327.
ヰシヌ (Viṣṇu) 327.
毘舍利 (Vesālī) 373, 384.
毘舅羅山 (Vepula) 166.
ヰヤーサ Vyāsa) 48.

FINIS.

明治四十三年七月十九日印刷
明治四十三年七月廿二日發行
明治四十三年九月　再版發行
明治四十三年十月　三版發行
明治四十四年二月　四版發行
明治四十五年三月　五版發行
大正二年十一月　六版發行
大正五年十一月　七版發行
大正七年五月五日八版發行

不許複製

著者　姉崎正治
發行者　大橋新太郎　東京市日本橋區本町三丁目八番地
印刷者　畑竹次郎　東京市神田區三崎町三丁目一番地
印刷所　博信堂印刷所　東京市神田區三崎町三丁目一番地
發行所　東京市日本橋區本町三丁目
振替貯金口座東京二四〇番　博文館

根本佛
呼内製本

東京帝國大學文科大學教授
文學博士 姉崎正治先生編

法華經の行者日蓮

圓滿の人格、血涙の一生、熱火の信仰、深遠の理想、描き來つて史詩あり、紀傳あり、哲學あり、宗教あり、懺悔の告白と救世の使命と、憂國の警策と感應の法樂と、奮戰の叫びと信仰の凱歌と、參差照應の壯觀古今に冠絶す。

忠實に上人の遺文に基き、佛教史、宗教學、宗教心理の通義に照らして「法華經行者」の一生を活現す。是れ二十世紀の新法華經也。

著者研鑽十五年、「法華經行者」を世界に公表すると同時に之を日本の公衆に薦む。

大判總布函入紙數六百餘頁
筆蹟(コロタイプ)寫眞(古版)十五枚
肖像寫眞版 大判地圖各一葉

正價二圓三十錢
送料內地一十二錢

博文館

文學博士 姉崎正治先生編

解說要本 **法華經の行者日蓮**

三六判總洋布函入瀟洒美本 正價金八十錢 送料六錢

先頃刊行の『法華經の行者日蓮』の〈廣本〉は批評研究的、今度の〈要本〉は解說的に要を摘むで、佛教の術語を一々近代語に直し、又脚註で解說したもの。〈廣本〉以後の新研究や、門外の材料を加へて、而かも容易に通讀し得る樣、〈廣本〉の四分一で『法華經行者』の經歷、思想、信仰、努力、血と涙との跡を傳へたのが、この一篇。

意志と現識としての世界

ショペンハウエル氏著
文學博士 姉崎正治君譯

全部三冊 菊判總クロース特製

上卷	中卷	下卷
紙數七百五十餘頁	紙數六百四十六頁	紙數七百五十餘頁
正價 壹圓八拾錢	正價 壹圓六拾錢	正價 壹圓八拾錢
小包料 十二錢	小包料 十二錢	小包料 十二錢

ショペンハウエル氏の哲學は近世思想とギリシア思想との融合、東洋思想と西洋哲學との連鎖。徹透の思想と剔抉の論議とを以つて、高遠の理想を宣べ、寂靜の福音を傳ふ。その大著作に彼れが死後滿五十年の紀念として發刊せられたり。今やこの大哲の名文は茲に姉崎博士の流暢なる口語に依りて譯出せられ、特に原著の論調語氣を寫すに勉められたれば從來哲學書は難解なりとの誤解もこの一書に依りて一掃されん。出版者たる本館も、亦この廉價を以て不朽の傑作大譯書を世に提供するを以て敢て誇とせん。

博文館發行
東京市本町
振替貯金口座
東京二四〇番

宗教と教育

東京帝國大學文科大學教授
文學博士 姉崎正治先生著

△中判洋裝美本六百二十頁 正價八拾錢 送料八錢

個人と社會、國家と人道、現實と理想、諸方面より宗教と教育との問題を論究したるものは本書也。信仰の闡明、人生の哲理、現代社會の評論として教化の大事を考ふる人の熟讀を要請す。

▽ ▽ ▽

文學博士 南條文雄君譯 ■ **比較宗教學**

文學博士 加藤玄智君著 ■ **世界宗教史**

文學博士 姉崎正治君著 ■ **宗教哲學**

正價 (特)各六拾五錢 (並)各五拾錢
送料・特十錢・並八錢

附篇

- 日本宗教の概觀
- 西洋文明の由來
- 立教會同の觀察

東京市日本橋本町
振替東京二四〇

博文館

文學士 石原即聞君著 ■ **佛教哲學汎論**

文學士 縣道玄君譯 ■ **宗教進化論**

法學士 工藤重義君著 ■ **世界宗教制度論**

正價 (特)各六拾五錢 (並)各五拾錢
送料・特十錢・並八錢

法華經講義

〔全二卷〕

東郷元帥 石井八代中將 外川高橋中將 相島少將 花房子爵 小笠原子爵 石橋中將 宮岡中將 細野大佐 杉村大將 松本少將 犬養木堂 横田大審院長 上村大將 佐藤少將 其他諸名士 } 題字

文學博士 三宅雪嶺先生序文

■菊判洋裝總布上製函入各冊紙數壹千頁。正價各冊金壹圓八十錢 小包料各十六錢

本書は佛教史三千年間に現れたる法華經に關する各種の思想は悉く之を參照し正法華經ケルン釋等を對照して法華の全文を詳細に解說し他面には法華經を基準として現代に要求する宗教の要義を批判し又我邦の文學史を考察して此經に關する詩歌を列擧し更に經中の要處には日蓮聖人の遺訓を引證し又科段は綿密なる圖表を附せり。序說には佛教全般に關する要義を擧げて之を解說し、釋文には釋題、大意、文々解釋の三段を分ち。文々解釋の下には科段。通解。妙解。異解。批判。質義。解決。參考。讃唱の項目を立てゝ極めて懇切に之を說明せり。法華經が世界第一の寶典たるは世既に定論あり苟くも思想の源泉を掬んで正明なる信解を得んとするものゞ何人も研究し讃仰すべき唯一の寶典なり。

博文館 發行

大僧正
本多日生猊下著

日蓮主義

三五判上製函入六五〇頁
正價九十五錢 郵稅六錢

本書講ずる所、無慮十有五萬言、第一篇には宗教の必要と其の選擇を論じ、第二篇には、我國思想史の正統を論し、第三篇には國民道德と宗教信仰の關係を明し、第四篇には破佛論の主張を擧げて之を紛碎し、第五篇には各種の佛教觀を辯じて其實歸を證し、第六篇には釋迦牟尼の芳躅を尋ねて清新なる信仰の泉を掬み、第七篇には佛教信仰の體系を論じて其の源流と分派と統歸とを辯し、第八第九第十の三篇には一切經の神髓たる壽量品の全文を講述し、第十一篇には日蓮主義に對する各種の觀察と眞意義を講明せり、又信仰者の爲に修法の次第と法華經の要品を掲げ更に本經祖書の要文を拔粹して信念の警策に供せり本書は最も堅實なる根據に立つて時代の要求を參酌せる日蓮主義紹介の絶好良書なり。

大僧正 本多日生師撰述

大藏經要義

△文學博士 井上哲次郎先生叙△
△海軍中將 佐藤鐵太郎閣下序△
△文學博士 姉崎正治先生論文△

菊判洋裝上製函入美本
三方金每卷四百頁以上
正價各壹圓八十錢 送料各十二錢

隔月發行十八卷完結

本書は大藏經中重要なる經典約壹千餘卷を撰出して其の組織と綱要とを簡明平易に講述し且つ要文を訓譯して詳解を附し、醇乎たる宗教的の妙旨、周到なる道德的の教義深遠なる哲學的の眞理、微妙なる人生訓を闡明し來つて一般人をして浩瀚なる**一切經の要義を公正に會得せしめん**とする空前の大著也。大藏經は佛教各宗の源流にて復是れ東洋文明の最高權威たるは論なき所、今や新文明の創建に進むに當り歷史的思想の傳統を諦觀するの必要に迫れるの時この大著に接す。心ある國人は擧つて本書の出現を歡迎すべき也。（大正六年）

卷一、卷二、卷三、卷四、卷五、既刊

◎發行所……東京日本橋區本町三丁目 **博文館**

從來『大藏經要義刊行會』にて取扱居候分は從前の通り同會より配本可仕此段爲念廣告候也

■東京府下南品川妙國寺內 **大藏經要義刊行會**

GANSHODO·SHOTEN
KANDA TOKYO
東京神田
巖松堂書店

終